

平成 24 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2013

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目 次

I. 平成24年度事業概要	1
調査の理由と工程	2
平成24年度 調査遺跡位置図	4
II. 遺跡調査の概要	7
稲沢市 北丹波・東流遺跡	8
東海市 松崎遺跡・上浜田遺跡	10
豊田市 トヨガ下遺跡	12
猪移り遺跡	14
栗狭間遺跡	18
範囲確認調査 蔵平遺跡	20
西尾市 岡山南遺跡	22
寄島遺跡	24
惣作遺跡	26
豊橋市 範囲確認調査 野添遺跡	28
東下地遺跡	30
設楽町 範囲確認調査 西地・東地遺跡 滝瀬遺跡	31
III. 刊行報告書抄録	33
第173集 上品野西金地遺跡	34
第174集 西牧野遺跡	36
第175集 下津宿遺跡	38
第178集 東中田A古窯	40
第179集 町屋遺跡	42
第180集 滝町古窯	44
第181集 桑下城跡	46
第183集 清洲城下町遺跡 XI	48
第187集 別岨古窯群	50
IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録	53
平成24年度 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について	54
考古学セミナー「あいちの考古学2012」の開催	60
V. 埋蔵文化財センターの活動	63
写真資料の貸出・提供	64
ホームページほか	66
現地説明会・地元説明会・遺跡報告会	69
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導	69
その他普及活動	69
平成24年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧	71
曲松遺跡 発掘調査報告書	73

I. 平成 24 年度事業概要

調査の理由と工程

1. 発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査期間	調査担当者
国土交通省	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	西地・東地遺跡 滝瀬遺跡 (範囲確認)	120	平成 24 年 10 月 ～平成 24 年 11 月	宮腰
県建設部 道路建設課	西三河 建設事務所	道路改良工事 一般県道西尾幡豆線	岡山南遺跡	1,075	平成 24 年 4 月 ～平成 24 年 7 月	酒井
	東三河 建設事務所	道路改良工事 (主) 東三河環状線	東下地遺跡	274	平成 24 年 7 月	松田・ 永井邦
			野添遺跡 (範囲確認)	200	平成 24 年 6 月	松田・ 永井邦
			道路改良工事 (一) 小松原二川停車場線	曲松遺跡	330	平成 24 年 5 月 ～平成 24 年 6 月
県建設部 都市整備課	一宮 建設事務所	街路改良工事（交付金） （都）名古屋岐阜線	北丹波・東流遺跡	2,320	平成 24 年 10 月 ～平成 25 年 3 月	永井宏
	知多 建設事務所	連続立体交差事業	松崎遺跡・ 上浜田遺跡	2,100	平成 24 年 5 月 ～平成 24 年 9 月	永井宏
県建設部 河川課	知立 建設事務所	中小河川改良事業 (鹿乗川)	寄島遺跡	3,000	平成 24 年 9 月 ～平成 25 年 3 月	酒井
		床上浸水対策特別緊急事業 (鹿乗川)	惣作遺跡	330	平成 24 年 11 月 ～平成 24 年 12 月	酒井
県企業庁 研究施設用地開発課		豊田・岡崎地区 研究開発施設用地造成事業	トヨガ下遺跡	3,800	平成 24 年 6 月 ～平成 24 年 12 月	宮腰・ 蔭山・ 武部
			猪移り遺跡	4,400	平成 24 年 5 月 ～平成 24 年 10 月	宮腰・ 蔭山・ 武部
			栗狭間遺跡	2,950	平成 24 年 8 月 ～平成 24 年 12 月	宮腰・ 蔭山
			蔵平遺跡 (範囲確認)	50	平成 24 年 5 月	宮腰・ 蔭山

計 20,949 ㎡

2. 整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査年度
整理	中日本 高速道路 株式会社	豊川工事事務所	第二東海自動車道 横浜名古屋線	石座神社遺跡	20,250	H20～22
	県建設部	都市整備課	連続交差立体事業	松崎遺跡・ 上浜田遺跡	8,300	H20・24
		下水道課	日光川上流流域 下水道事業	一色青海遺跡	5,500	H21
整理・ 報告書作成	中日本 高速道路 株式会社	豊川工事事務所	第二東海自動車道 横浜名古屋線	須長 10 号墳	1,200	H21
	県企業庁	工務課	内陸用地造成事業 「大府木の山地区」	別岨古窯群	1,200	H22
		東三河水道事務所	愛知県水道用水 供給事業	キジ山古墳群・ 晴雲寺址	2,170	H22
	県建設部	都市整備課	街路新設改良工事 (住宅基盤整備) 3・4・ 616 助七西市場	清洲城下町遺跡	2,390	H23・24
		道路建設課	道路改良工事 (国) 363 号	桑下城跡	10,400	H16・19～21
			道路改良工事 (主) 東三河環状線	東屋敷遺跡	4,420	H20～22

3. 平成24年度刊行物

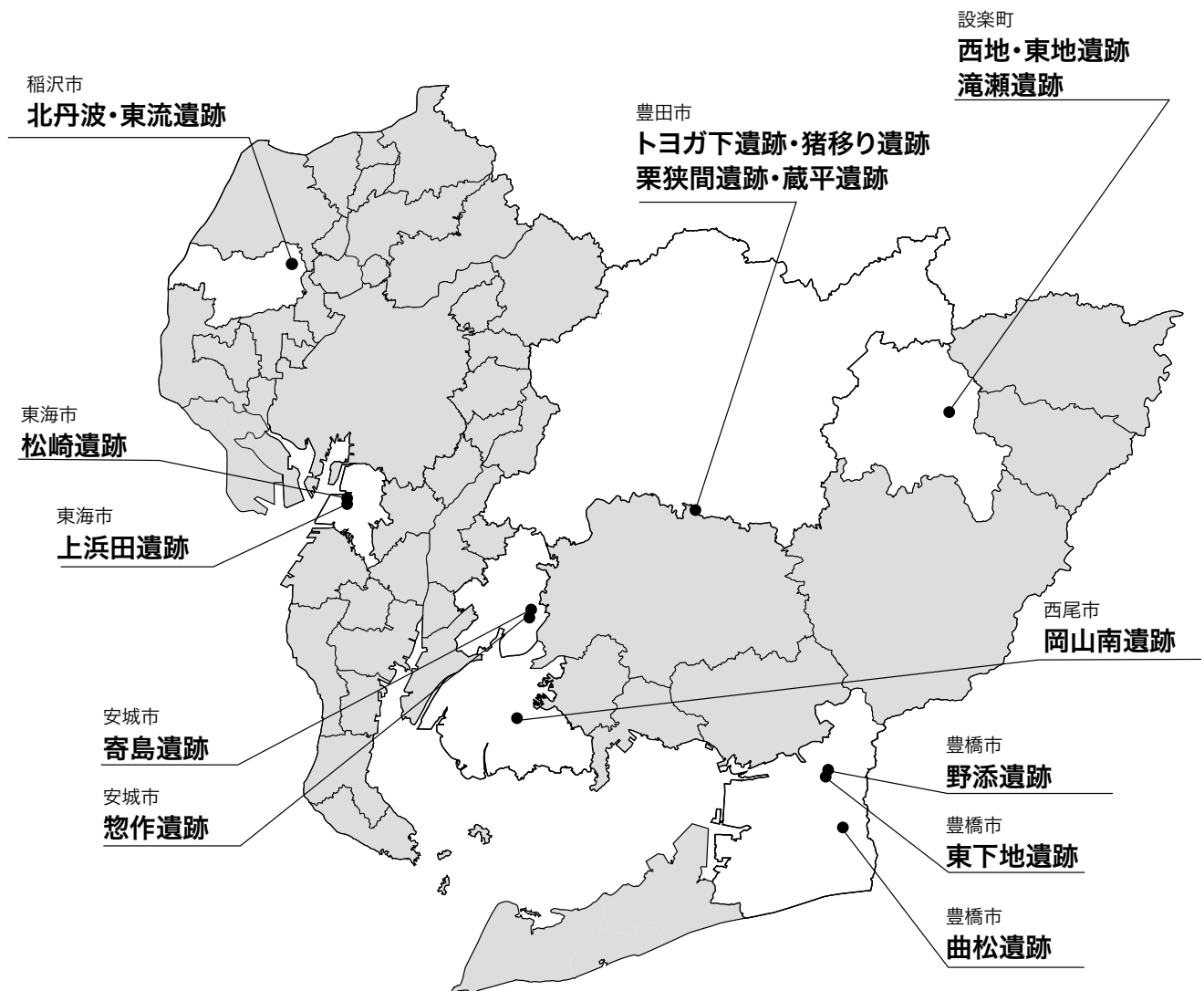
・埋蔵文化財報告書(計9冊)

- 第173 集 上品野西金地遺跡
- 第174 集 西牧野遺跡
- 第175 集 下津宿遺跡
- 第178 集 東中田A古窯
- 第179 集 町屋遺跡
- 第180 集 滝町古窯
- 第181 集 桑下城跡
- 第183 集 清洲城下町遺跡
- 第187 集 別岨古窯群

・平成24年度 愛知県埋蔵文化財センター年報

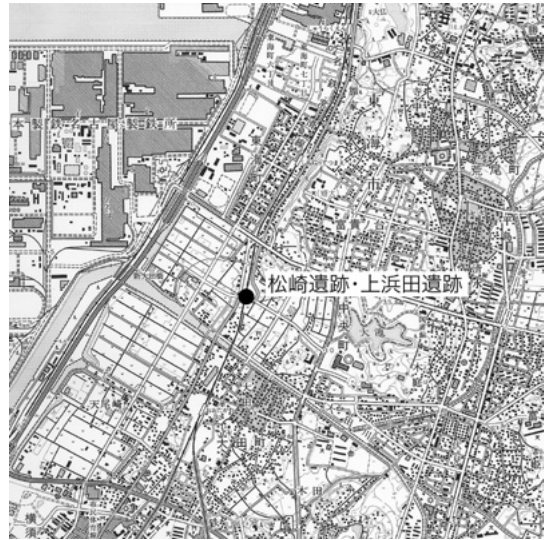
・研究紀要 第 14 号

平成24年度 調査遺跡位置図





国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」



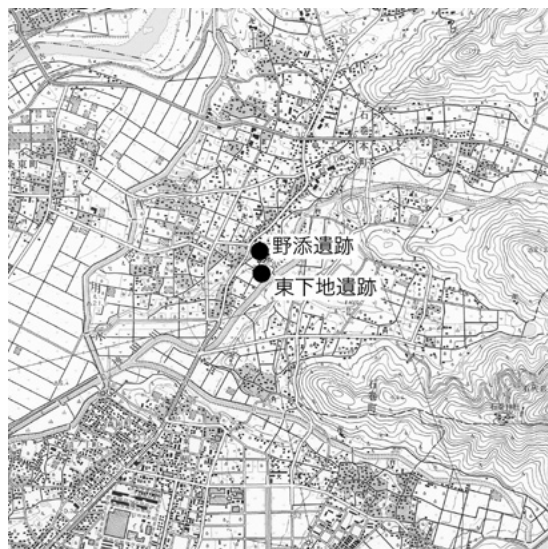
国土地理院 1/2.5 万地形図「鳴海」



国土地理院 1/2.5 万地形図「西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」

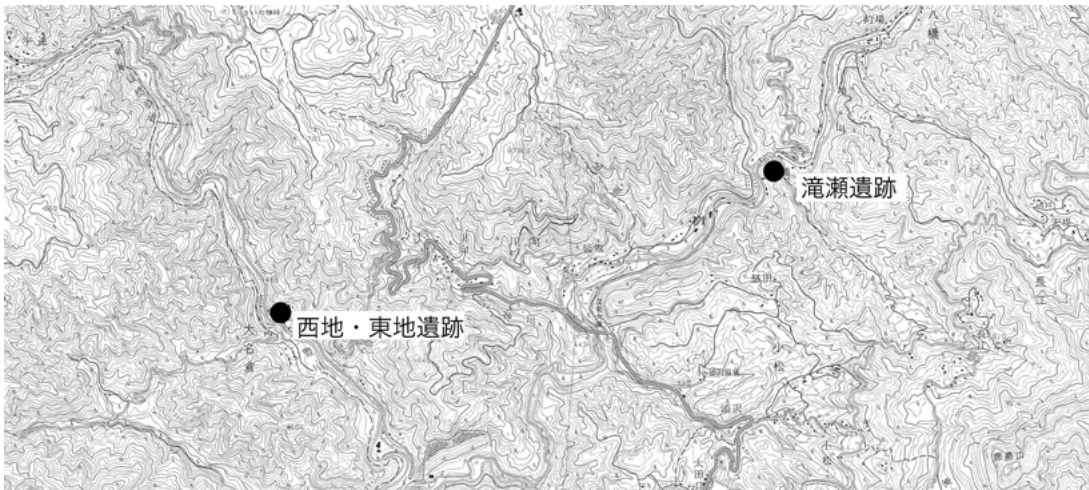


国土地理院 1/2.5 万地形図「二川」

※ 地形図は 50%縮小されています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「大沼」



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口」

※ 地形図は 50%縮小されています。

II. 遺跡調査の概要

きたたんば ひがしながれ

北丹波・東流遺跡

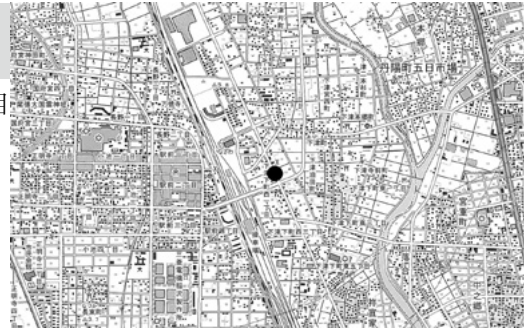
所在地 稲沢市下津丹下田町・下津森町・下津下町西1丁目
(北緯35度15分6秒 東経136度49分39秒)

調査理由 街路改良工事(都)名古屋岐阜線

調査期間 平成24年10月～平成25年3月

調査面積 2,320㎡

担当者 永井宏幸



調査地点(1/2.5万「一宮」)

調査の経過 県道名古屋岐阜線の街路改良工事業にともなう事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。調査は、2,320㎡おこなった。調査区は現道に沿って、街路改良部分を対象とした。南北に延びる県道に対して、東西方向を横断する公道などを境に、便宜上A～I区の都合9つの調査区に分けて調査を進めた。

立地と環境 遺跡は、遺跡の北東側にある青木川右岸に広がる自然堤防およびその後背湿地に立地する。標高は現況4～5m前後である。遺跡の北方約1kmにある下津蛇池町辺りで、現青木川の分派した旧河川は500mほど南流した地点で大きく西側に屈曲する。この屈曲する左岸に隣接して下津新町遺跡が位置する。下津新町遺跡をまっすぐ南下し、北丹波・東流遺跡を取り囲む広大な后背湿地の北東側を直角に取り囲んで通る岐阜街道は、ちょうど自然堤防と后背湿地の境となっている。

調査の概要 調査の結果、古墳時代前期、奈良時代初頭を中心とした古代前半期、平安時代末から鎌倉時代初頭と室町時代後半を中心とした中世、以上大きく3つの時期を中心に遺跡が展開していた。

古墳時代は遺跡の北端と南端から遺構を確認した。北端では、E区で北東から南西方向に延びる幅3m前後、深さ1m超を測る溝が2条平行して、F区で幅2m前後、深さ1mを測る溝が1条、幅4m前後、深さ1.5m前後を測る溝が2条平行して確認した。それぞれの溝間に斑土状の盛土を確認した。出土した遺物から、廻間2～3式の時期と考えている。南端では、南北方向に2条の溝をA区で確認した。

古代の遺構は、ほぼ調査範囲全域で確認した。そのうち、Fa区で確認した南北方向の溝は幅3m前後、深さ約0.8m前後を測る。焼土、炭化物に混じり、「美濃」施印須恵器鉢をはじめ大量の須恵器・土師器が出土した。D区の溝では人名の刻書須恵器が出土している。

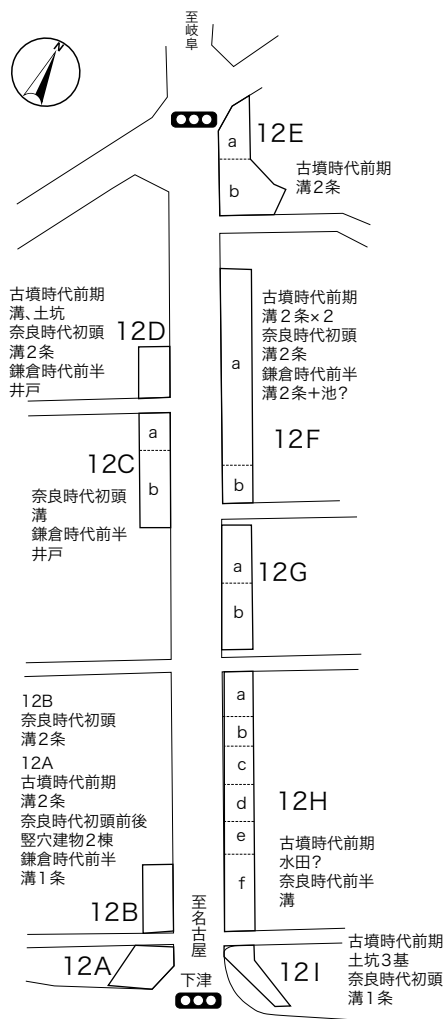
鎌倉時代前半を中心とした遺構は、A区で溝1条、Da区で井戸2基、Fa区で溝2条などを確認した。Da区の井戸は、井戸廃棄に伴う祭儀がおこなわれているようで、井戸枠より下位の基底部に碗皿類と拳大の川原石が敷かれていた。Fa区の溝は東西方向に延びる幅4m前後、深さ1.5m前後を測る大溝であった。一般的な屋敷地を区画する溝ではなく、堀を想起させる規模である。(永井宏幸)



「美濃」施印須恵器鉢



Eb区古墳時代前期溝2条



調査区位置図 1:2,000



Fa区中世の遺構調査状況



Ca区鎌倉時代前半の井戸祭祀

まつぎ かみはまだ
松崎遺跡・上浜田遺跡

所在地 東海市大田町松崎・上浜田
(北緯35度1分35秒 東経136度53分44秒)

調査理由 連続立体交差事業

調査期間 平成24年5月～平成24年9月

調査面積 2,100 m²

担当者 永井宏幸



調査地点 (1/2.5万「鳴海」)

調査の経過 名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業にともなう事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。調査は、平成20年度に実施した08B区西側に隣接して2,100m²おこなった。今回の調査区は、国道247号と鉄道高架の交差する以北に展開する松崎遺跡と、C区西側に隣接する上浜田遺跡の間をつなぐ地区にあたる。調査区は全長約270m、幅7～10mを測る。細長い調査範囲のため工程上、北からA・B・C区にわけて進めた。なお、20年度調査地はすでに鉄道の高架が完成し、20年度調査当時、仮設の軌道であったところが今回の調査区にあたる。

調査の概要 調査の結果、旧海岸線に形成された砂堆と調査区南西から北西に縦断する街道とほぼ一致することが判明した。この砂堆縁辺付近に古代を中心とした遺構が削平を免れ、貝層を伴う大型廃棄土坑などがみつかった。遺物は、調査地南端のC区南側をのぞくほぼ全域から出土した。古墳時代後半期から古代までの製塩土器をはじめ、古代を中心とする須恵器・土師器が多く出土した。

調査区北半は、名古屋鉄道の軌道により削平され、包含層が一部残る程度であった。当初、遺構と判断していた茶褐色から黒褐色土層は、鉄道造成時に残存し、かつ軌道の重量により沈下した包含層であることがわかった。

調査区南半は、鉄道の軌線による影響が少なかった。旧愛知鉄道により、街道が分断されたあとも、街道の地割りに沿って宅地が並んでいたと思われる。現況の宅地の地割りと表土層から続く宅地の境界が、調査区南西から北東にのびる道路と一致することも裏付けになろう。

街道部分は、厚さ50cm前後、幅5m前後の砂質土と粘質土の互層となる硬化した整地土層が調査区を縦断している。この整地土は版築状に締め固められていた。大正11年の硬貨が土層内にあったことから、愛知鉄道開通後も道路整備が続いていたことを裏付ける。

街道と考えた部分を掘り下げると、近世陶器の混入する堆積層まで互層堆積を確認した。この街道を境に南側は湿地状の堆積層(埋め立てる前は水田として利用していた)がひろがり、現大田川にむかって窪地があったと考えられる。C区南側2/3はこの窪地に相当し、街道を境に段差があったことを地表下で確認できた。つまり、南北方向に延びる砂堆を境に西側は海域、東側は湿地状の低地といえる。この景観は08調査区からの延長であり、街道と湿地の段差によって追認できた。

B区とC区北寄りの砂堆に数カ所、貝層をともなう土坑があった。貝層は焼土や炭化物が混じる。なかでもB区南寄りに検出した貝層を伴う大型廃棄土坑090SKは、3.8×3.3mの不定形、深さ30cm前後を測る。090SKは須恵器などが出土し、奈良時代初期の遺構と考えられる。貝種はハマグリが主体で、ウミニナも含む。貝層のフローテーションを試みたが、環形動物や微小貝類は採取できなかった。090SKの底面近くには馬の下顎骨・肩甲骨などがまとまって出土した。馬の骨は既調査からも同時期の類例が報告されている。

出土遺物は、製塩土器の出土状況から偏差を指摘できる。A区北寄りには知多式1類から4類までが出土、A区南寄りからB・C区北寄りにかけては4類が中心に出土した。つまり松崎遺跡に近い地点は古墳時代の製塩土器があり、上浜田遺跡に近い地点では古代の製塩土器が中心に出土している。製塩土器のほか、奈良時代初頭前後の須恵器・土師器甕を中心に、灰釉陶器、山茶碗、鉄鏃、土錘なども出土している。(永井宏幸)



090SK 遺物出土状態



出土遺物



遺跡全景 (C区を北からみる)

写真手前中央の砂堆と住宅の軸線が一致することに注目。
宅地左側(東)の旧街道と砂堆縁辺が一致する。



C区の調査状況

砂堆の縁辺部を調査しているところ。

トヨガ下遺跡^{した}

所在地 豊田市下山田代町字トヨガ下
(北緯35度15分7秒 東経137度14分46秒)
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
調査期間 平成24年6月1日～平成24年12月28日
調査面積 3,800 m²
担当者 宮腰健司・武部真木・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「東大沼」)

調査の経過 調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う発掘調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成24年6月1日～12月28日の期間で実施した。調査対象地の現況は旧水田耕作地などの平場と緩斜面に植林された山林となっており、A区・B区の2カ所に調査区を分けて設定し、調査を行った。

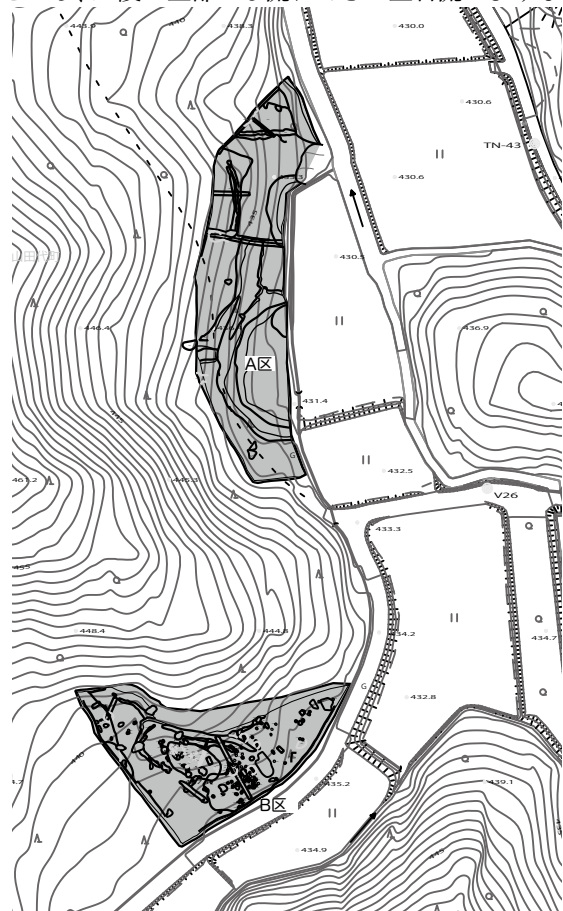
立地と環境 トヨガ下遺跡は豊田市下山田代地内にて郡界川に合流する沖川の西岸丘陵部に位置しており、A区の東に面して流れる沖川を挟んで東に猪移り遺跡がある。調査地点の標高は432～448mである。

調査の概要 調査の結果、A区において縄文時代前半期の流路跡1条、中世から近世にかけての道1条・溝1条、近世後半以後の炭焼窯跡3基を確認した。注目されるのはA区北端部でみつかった縄文時代前半期の流路跡で、泥質凝灰岩やチャートの剥片が出土した。埋土は拳大から人頭大の礫が多くはいる砂礫層であることから、丘陵の上部から流れてきた土石流のような堆積と考えられた。

B区はA区から南へ尾根を超えた側の南向き斜面であり、古代の流路跡1条と古代の包含層(焼土)、中世から近世の溝4条とピット群、炭焼窯跡5基を確認した。古代の遺物では灰釉陶器碗・皿と小瓶、土師器甕などがあり、流路のある谷の上流部から流れてきたものと考えられる。そのほか石器剥片、弥生時代前期の条痕文系土器などが出土している。(蔭山誠一)



調査区全景



トヨガ下遺跡全体図 (1:2,000)



A区全景(東より)



A区010SX(北東より)



B区全景(西より)



B区古代の包含層



B区古代の土坑



B区焼土を含む土坑



B区墨書のある灰釉陶器碗



B区古代流路跡007NR

いうつ 猪移り遺跡

所在地 豊田市下山田代町字猪移り
(北緯35度1分26秒 東経137度19分13秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成24年5月～平成24年10月

調査面積 4,400 m²

担当者 宮腰健司・武部真木・蔭山誠一



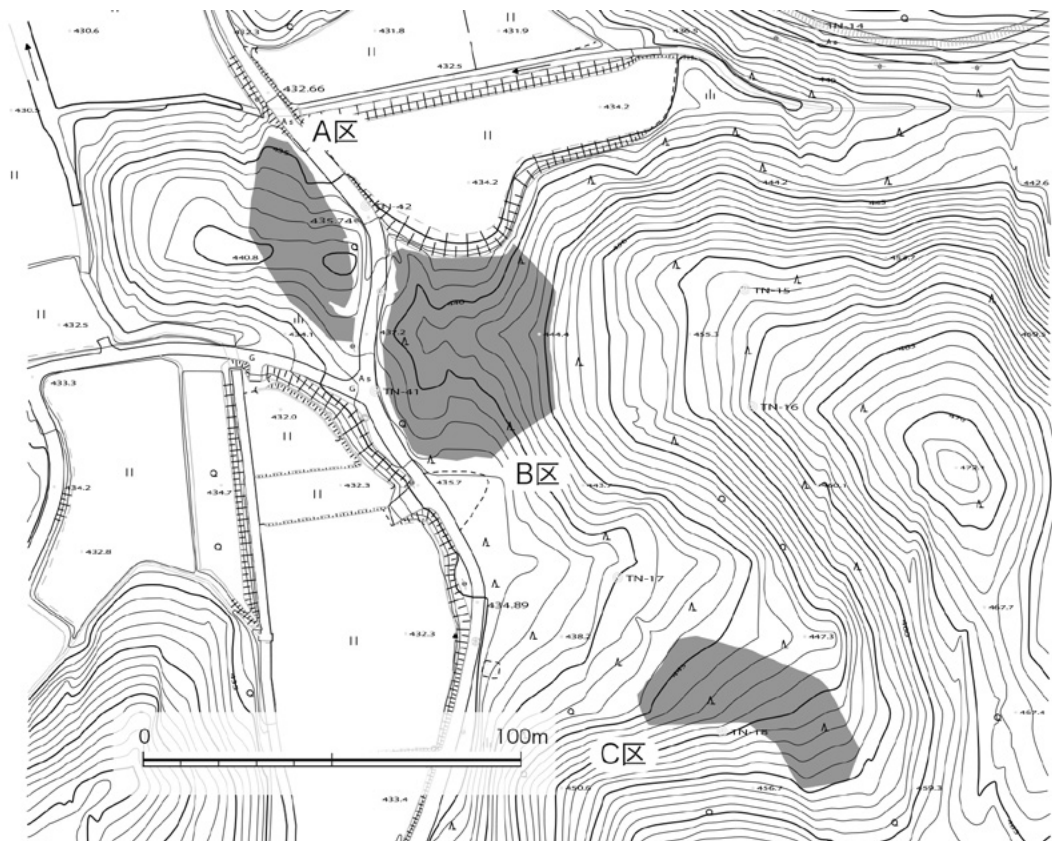
調査地点 (1/2.5万「東大沼」)

調査の経過 調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて平成24年5月から10月にかけて実施した。調査面積は4,400m²であり、A・B・C区の3調査区の調査を行った。

立地と環境 遺跡は豊田市域の北東部の丘陵地帯にあり、下山地区を流れる郡界川の支流、沖川の東岸の標高430m前後の丘陵上に立地する。近接してトヨガ下遺跡、柿根田遺跡があり、遺跡東側に続く谷の上流部には蔵平遺跡、栗狭間遺跡などの遺跡が分布する。

調査の概要 今回の調査では、地形的に連続するA,B区において縄文時代早期を中心とした多数の遺物が出土したほか、数基の土坑が確認できた。また試掘調査等で確認された平安～江戸時代については、各地区において遺物を採取した。なお近代～現代に操業したとみられる炭焼窯跡については表土掘削作業の前に個別に位置・規模等の情報を記録した。

A区の遺構 A区では尾根上に土坑(017SK)1基と、北側斜面で土坑2～4基を検出した。017SKの平面形は隅丸方形をなし、長さ3.24m、幅1.62m、深さ0.66mの規模をもつ。石器(剥片)と



猪移り遺跡 調査区位置図 (S=1/2,000)

縄文時代中期後半～後期前半の土器を含む。015SKは長さ1.3m、幅0.76m、深さ0.3mの楕円形の土坑であり、内部に少量の焼土と炭化物、被熱の痕跡のある礫などが廃棄されている。これら以外の土坑は不確実な部分が多く、倒木痕などの可能性も考えられる。遺物は土坑周辺から北側の斜面にかけて分布しており、尾根上で検出したチップ、剥片類を除くほとんどの資料は斜面に二次堆積したものと考えられる。

B区の遺構 B区においても尾根上で土坑を検出した。024SKは直径約1.0m、深さ0.47m規模の円形の土坑であり、主に凝灰岩質の剥片類が出土した。022SKは径1.16～1.5m、深さ0.7m規模の楕円形の土坑であり、樹木根に攪拌された上層に早期後半の土器が多く含まれる。黒





A・B区全景 (北から)



B区北側斜面の谷状地形 (北東から)



B区全景 (左が北)



B区022SK 完掘状況



異形局部磨製石器 (B区)



A区017SK完掘状況



有舌尖頭器 (A区)



A区015SK炭化物・礫の出土状態



C区全景

色土を埋土とする谷状の地形のうち、やや規模の大きなものが北側斜面に2カ所、南側斜面に1カ所があり、土坑のある尾根に近い北側斜面の谷埋土から石器、早期土器片多数が出土した。それ以外の2カ所の谷からは押型文土器、凝灰岩剥片、石匙、灰釉陶器、土師器などが出土したが、ごく少量である。

出土遺物 出土遺物の多くは、A区尾根上からB区谷状地形にかけての範囲に分布し、総数は土器と石器あわせて2,000点以上に及ぶ。土器はいずれも小片ではあるが少量の押型文土器(山形文、楕円文)のほか粕畑式を主体とした早期後半の条痕文系土器が多数を占める。また中期～後期の土器は主にA区に偏在するようである。石器類は草創期の有舌尖頭器(1点)、早期の異形局部磨製石器(1点)があるほか、チャート、凝灰岩、黒曜石を用いた石鏃、スクレイパー、石匙、その他剥片、花崗岩を用いた磨石・叩き石、凹み石、台石などがある。このうち石鏃はA・B区合わせて50点を超える。またA区の尾根上には凝灰岩を主体とした剥片やチップが集中して分布する範囲があり、この付近で石器製作が行われていた可能性が考えられる。

C区の調査 C区では明確な遺構はほとんど確認されなかった。ただ北向きの斜面に近代以降の炭焼窯跡が多数分布し、調査範囲内では3ヶ所を調査した。石鏃1点のほか、山茶碗、近世・近代陶磁器片が包含層より出土した。

まとめ A・B区の縄文時代の遺物の分布状況から、利用範囲は東から西へ延びるやや低い丘陵の先端付近、尾根上の比較的狭い部分に限定される。少なくとも縄文時代早期には断続的に利用されるキャンプサイト的な場所であったと考えられる。(武部真木)

くりはざま
栗狭間遺跡

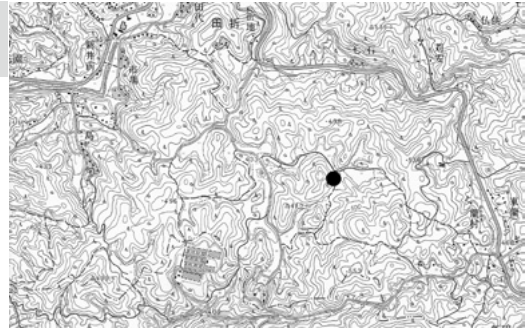
所在地 豊田市下山田代町字栗狭間
(北緯35度1分26秒 東経137度19分32秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成24年8月21日～平成24年12月14日

調査面積 2,950 m²

担当者 宮腰健司・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「東大沼」)

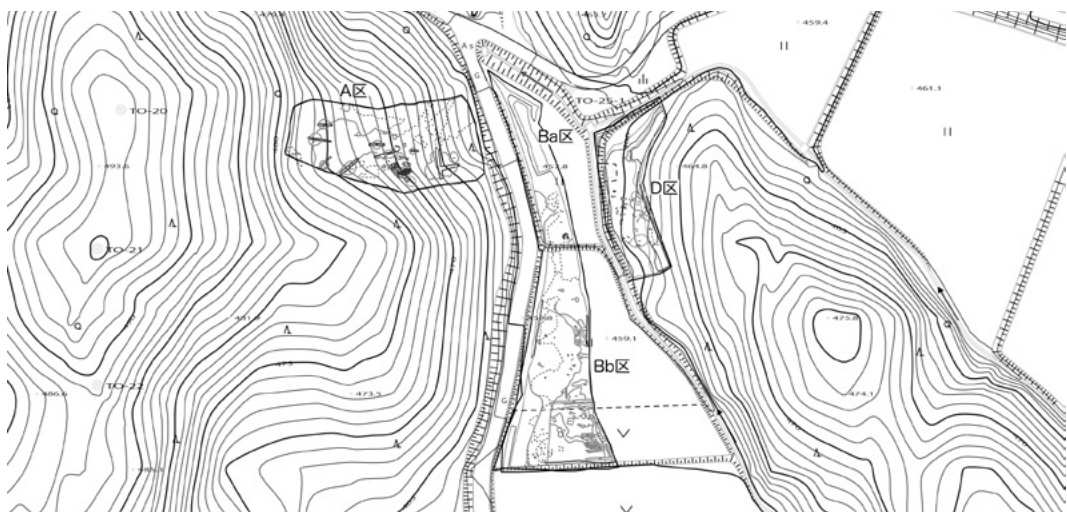
調査の経過 調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う発掘調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成24年8月21日～12月14日の期間で実施した。調査対象地の現況は旧水田耕作地などの平場と緩斜面に植林された山林となっており、調査対象地の樹木伐採の進捗状況との関係で、A区・Ba区・Bb区・D区の4カ所に調査区を分けて設定し、調査を行った。

立地と環境 栗狭間遺跡は豊田市下山田代町地内にて郡界川に合流する沖川の東岸丘陵部に位置しており、沖川に合流する谷川の上流部にあたる谷部と谷を囲む丘陵部に遺跡が確認されている。D区のある丘陵を挟んで東に今年度愛知県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が実施された鶴ヶ池遺跡がある。調査地点の標高は456～478mである。

調査の概要 調査の結果、A区にて中世～近世の自然流路1条・土坑5基を確認し、有舌先頭器1点・石匙1点・山茶碗等が出土した。Bb区では縄文時代のドングリピット3基・中世から近世の自然流路2条・近世後半期～近代の畝状溝・溝・土坑などを確認し、ナイフ形石器2点・中世から近世の陶磁器が出土した。D区では縄文時代と思われる落とし穴の土坑2基を確認し、縄文時代早期～前期の縄文土器が出土した。近代以降の炭焼窯跡は、A区に12基、D区に2基確認した。(蔭山誠一)



栗狭間遺跡全景 (北より)



栗狭間遺跡全体図 (1:2,000)



Bb区全景(北東より)



Bb区001NR(西より)



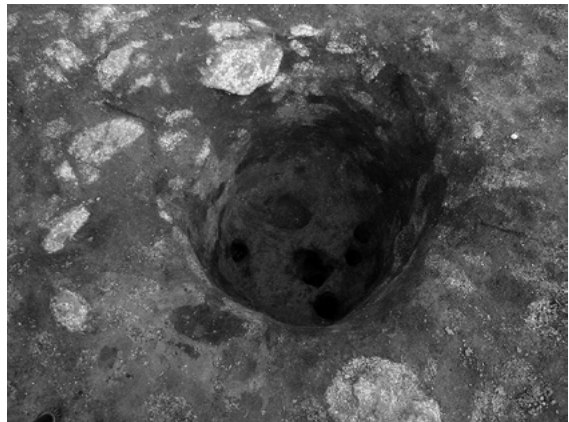
Bb区032SK、ドンダリの出土状況(北より)



Bb区033SKの断面(北東より)



D区全景(北より)



D区006SK(北西より)



A区炭焼窯跡009SY(北東より)

範囲確認調査 蔵平遺跡

所在地 豊田市下山田代町字蔵平
(北緯35度1分37秒 東経137度19分13秒)
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
調査期間 平成24年5月23日～平成24年5月30日
調査面積 50 m²
担当者 宮腰健司・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「東大沼」)

調査の経過 調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成24年5月23日～5月30日の6日間実施した。調査対象地の現況は旧水田耕作地などの平場と緩斜面に植林された山林となっており、周囲の地形と樹木・岩などの障害物の外れる地点を考慮して、試掘トレンチ (以下「TT番号」で表す) を25カ所設定して調査を行った。

立地と環境 蔵平遺跡は豊田市下山田代町地内にて郡界川に合流する沖川の東岸丘陵部に位置しており、平成22年度に範囲確認調査が実施された和倉遺跡の南に隣接する地点である。調査地点の標高は439～462mである。

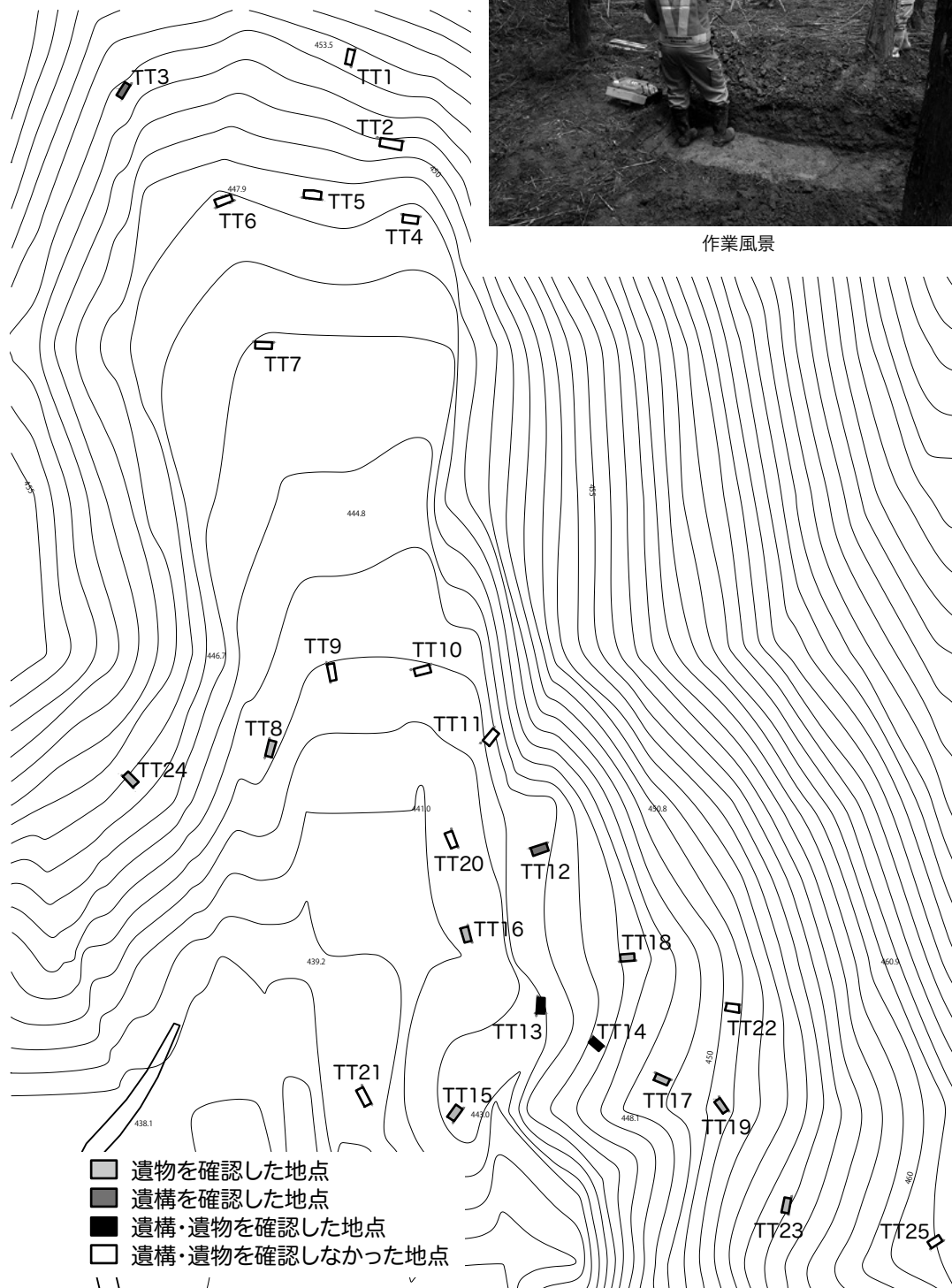
調査の概要 調査の結果、調査対象地の丘陵東側斜面にあるTT13・TT14を中心にTT12～TT19・TT22・TT23にて遺構と平安時代の遺物を多く確認できた。その他には和倉遺跡の南にあたるTT3において、炭焼窯跡と思われる堆積とその下部に遺構の可能性がある土坑が確認でき、調査対象地の西側斜面にあるTT8・TT24においても遺構は確認できなかったが、奈良時代から平安時代にかけての遺物が確認できた。以上の調査成果から、調査対象地の東側斜面のTT13・TT14を中心とする地点において遺跡の中心があり、調査対象地の西側斜面には別の遺跡の存在が推定される。調査対象地の北側にあるTT3は和倉遺跡の南端部にあたる可能性がある。(蔭山誠一)



TT12(南より)



TT14(南西より)



範囲確認調査トレンチ配置と成果概要



作業風景

おかやまみなみ

岡山南遺跡

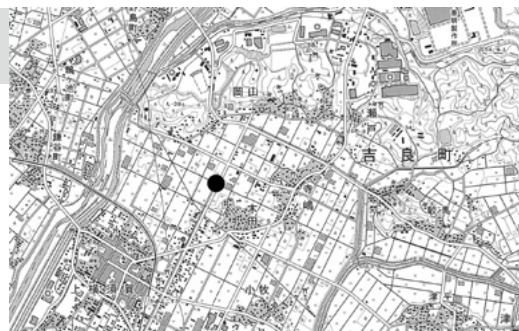
所在地 西尾市吉良町木田
(北緯34度50分15秒 東経137度4分38秒)

調査理由 道路改良工事 一般県道西尾幡豆線

調査期間 平成24年4月～平成24年7月

調査面積 1,075㎡

担当者 酒井俊彦



調査地点 (1/2.5万「西尾」)

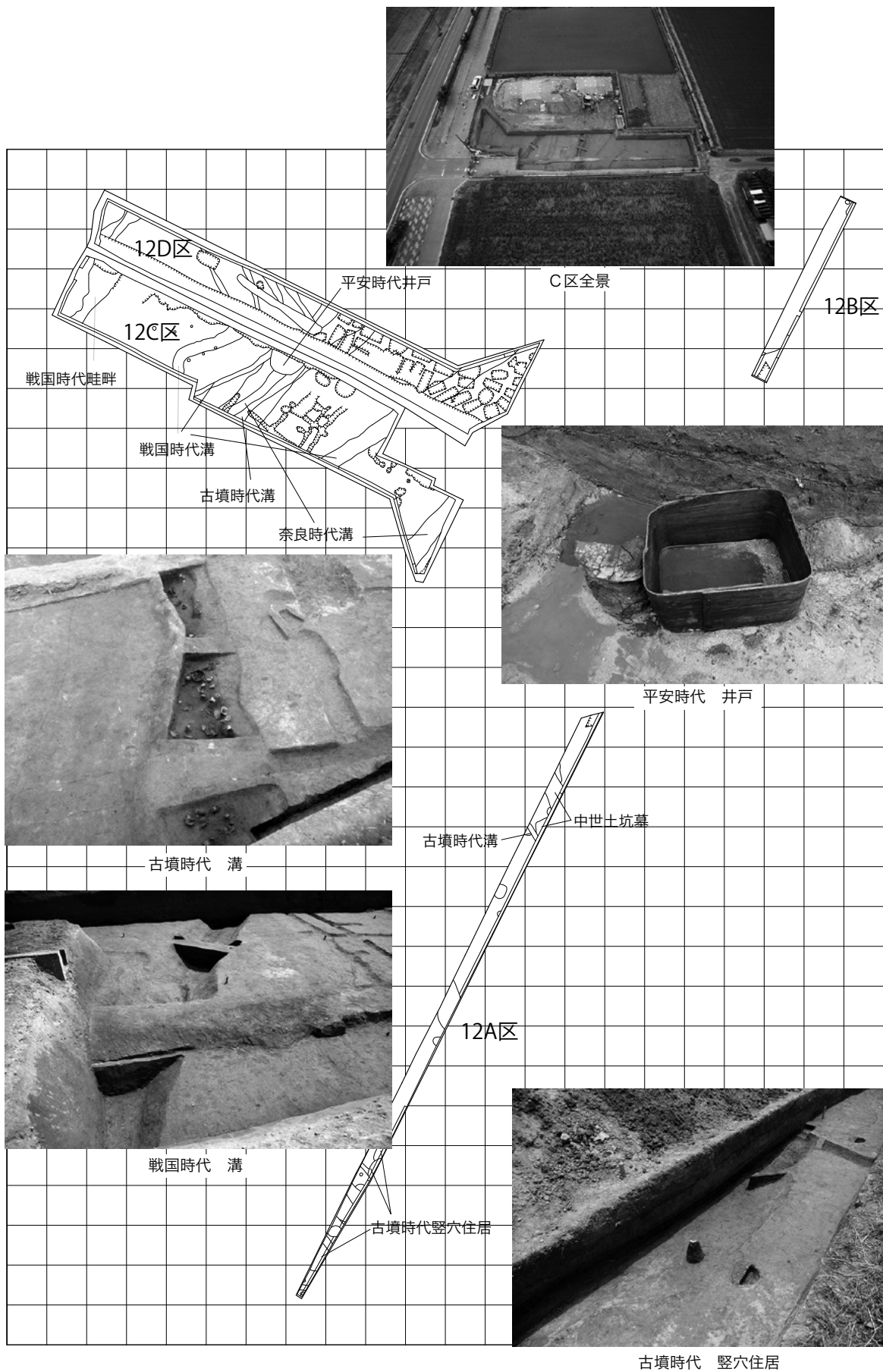
調査の経過 本調査は県道西尾幡豆線の改良工事に先立つもので、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて調査を実施したものである。昨年度は遺跡の東半を調査し、古墳時代、古代、近世の3時期の遺構が確認されている。今年度は遺跡の西半の調査を行った。県道用地に南北方向に直行する市道の拡幅部分にA・Bの2調査区、市道西側の県道用地内にC・Dの2調査区を設定した。

立地と環境 遺跡は矢作川下流域、古矢作川左岸の沖積地に位置する。現在は平坦な地形であるが、沖積微高地上に立地している。遺跡の北側には三河山地からのびる岡山と呼称される丘陵地帯が存在する。この丘陵上に中根山遺跡、吉良八幡山古墳、若宮古墳群などが所在し、この南側に岡山南遺跡などの遺跡群が分布する。この地域には未調査ながら弥生時代以降の遺跡群が確認されているが、旧吉良町地域の沖積地での調査は本調査が初例である。

調査の概要 遺構面は2面存在し、第1面奈良時代以降、第2面古墳時代初頭の遺構が検出された。調査区は沖積微高地上に所在するため大部分は削平をうけ、第1面が消失し、第2面で全時期の遺構を確認した。A区の南端部分は微高地面が下がるため、第1・2面が存在した。

第1面の主な時期として、中世、古代がある。中世の遺構としてはA区で土坑墓が3基確認された。遺物は検出されないが、埋土の状態、遺構の規模・平面形態より土坑墓と考えられる。また、戦国時代の遺構としては、C・D区で南北方向の溝3条、および水田の畦畔の高まりが検出された。溝は並行して同一方向に走り、東側の溝は掘方がやや大きく、屋敷地の区画溝の可能性がある。また、畦畔と水田の落込みが検出された。溝および水田の埋土中より15世紀後半から16世紀前半の古瀬戸施釉陶器、土師器が出土した。平安時代の遺構としてはC区で井戸が1基検出され、井戸枠は平面形が隅丸方形の曲物が最下段のみ確認された。平安時代後期の灰釉陶器が出土している。奈良時代の遺構はC・D区で溝2条が確認された。やや離れた位置でほぼ平行に南北方向に走る。いずれも幅1.5mほどで1回の掘り返しが確認された。出土遺物は少量ながら、完形の須恵器杯等が出土した。性格は不明である。第2面の遺構として、古墳時代初頭の竪穴住居、溝、土坑が検出された。竪穴住居はA区の南半で3棟検出された。古墳時代以後の削平を受け、遺存状況は悪い。溝はA区で東西方向の溝1条、C・D区で南北方向の溝1条を確認した。A区の溝は検出面で掘り込みは浅く、台付甕がややまとまって出土した。C・D区の溝は断面V字でやや深く、遺存状況は良い。壺、甕、高杯などがまとまって出土した。近接して竪穴住居は検出されていないが、出土状況などから集落を巡る溝の可能性がある。この溝は上層の奈良時代溝と同方向で重複しており、地形的関連が考えられる。

今後、県道建設にともなう調査が進行し、資料の増加が見込まれる。近辺の遺跡との関係を明らかにする事が課題である。(酒井俊彦)



よせじま
寄島遺跡

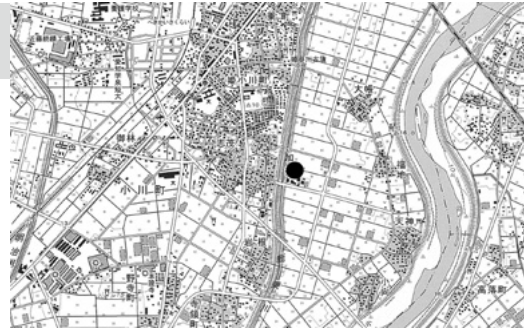
所在地 安城市小川町
(北緯34度54分29秒 東経137度05分45秒)

調査理由 中小河川改良事業(鹿乗川)

調査期間 平成24年9月～平成25年3月

調査面積 3,000㎡

担当者 酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 調査は中小河川改良事業(鹿乗川)に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて本センターが委託を受けて調査を実施したものである。本遺跡は平成19年度及び昨年度に調査を行い、今回を含めて調査総面積は8,600㎡である。今年度は、平成19年度調査区の北側に南よりA・Bの調査区を設定した。

立地と環境 本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川右岸の沖積地に立地する。左岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開する。平成12年より本センターが調査を行っている鹿乗川右岸には北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。鹿乗川は碧海台地東辺を南北方向に直線的にはしり、遺跡周辺は平坦な地形をなす。旧鹿乗川は蛇行して走ることが確認され、惣作遺跡、寄島遺跡で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開する。本遺跡南端の旧河道南側に古代の集落が展開し、下懸遺跡に連続する。旧河道北側では方形周溝墓と大形の古墳の溝と推定される遺構が検出され、古墳時代の墓域と推定される。この墓域の北側は古墳時代集落域となり、竪穴住居、掘立柱建物が50棟以上検出されている。今年度の調査区はこの集落域の北部に相当する。

調査の概要 今回の調査では、上下2面の調査を行った。上面では古代以降の遺構を確認した。主な時期は古代および中世で少数の土坑等が検出された。全体として遺構の密度が低く、明確な集落は確認できない。下面の遺構としては古墳時代前半の竪穴住居・掘立柱建物群および溝群を検出した。竪穴住居はA区で8棟、B区で19棟、掘立柱建物はA区で4棟を確認した。平成19年度の調査では40棟以上の竪穴住居を検出し、集落の中心と推定される。今年度のA区では竪穴住居数が減り、密度が低くなるが、B区では絶対数、密度ともに増える傾向となる。集落が北に展開し、別の中心が存在することが想定される。竪穴住居は周溝の幅が数十cm～1mとなる本遺跡に特徴的な形態のものが検出された。床面上に炭化物層がある竪穴住居が多く、炭化した建築部材が倒壊した状況の焼失住居が確認された。これらには床面上に土器がまとまって検出される例が多い。また特徴的な遺構として集落に先行する溝群が検出されている。幅が最大60cm深さが最大40cm程度で、数条が一定間隔で平行して直線的に走る特徴がある。A区南部では溝群が直行して切り合っている。溝の埋土中からは遺物はほとんど出土しない。古墳時代前期で集落に先行する時期の農耕に関わる遺構と推定される。また、遺物が比較的多く出土する溝が検出され、時期的にこれらの溝より新しく、直角に屈曲し、性格的に異なるものと予想される。その他の時期として、弥生時代の壺形土器が集中して検出された落ち込み状の遺構がある。明確な掘方が認められないため、自然面に土器を廃棄した状況と考える。

まとめ 今後、古墳時代前期の集落の広がりをも明らかにすると同時に周辺の古墳との関連を検討することが課題と考える。(酒井俊彦)



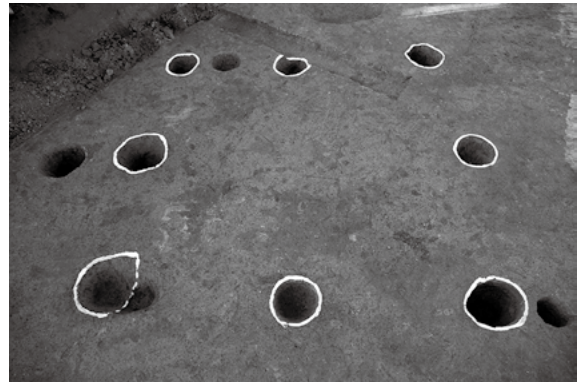
遺跡遠景 (南から)



A区全景 (南から)



竪穴住居



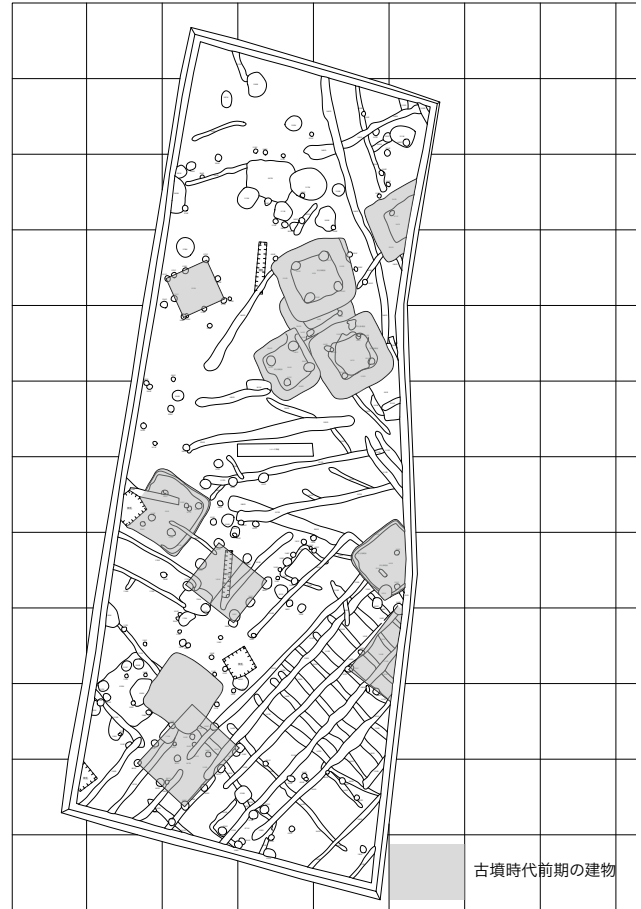
掘立柱建物



溝群



弥生土器出土状況



A区遺構図 (下面)

そうさく
惣作遺跡

所在地 安城市木戸町
(北緯34度53分59秒 東経137度05分38秒)

調査理由 床上浸水対策特別緊急事業(鹿乗川)

調査期間 平成24年11月～平成24年12月

調査面積 330㎡

担当者 酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 本調査は鹿乗川改修工事により床上浸水対策特別緊急事業にともなう調査として愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて本センターが委託を受け実施した。昨年度は本調査区の北側2,200㎡を調査し、古代の竪穴住居6棟等を検出した。主な遺物としては、古墳時代から古代の遺物が出土した。この調査で調査区南端に旧河道が検出され、湿地性堆積物から古代の木製品が出土した。このため調査範囲南側に遺物包含層が存在する事が予想され、今回の調査に至った。

立地と環境 本遺跡は矢作川下流域左岸の現鹿乗川に沿う沖積地に立地し、旧河川が形成した微高地上に所在する。遺跡南端に古代以前の旧河道が東西に走り、この南岸の自然堤防上も遺跡範囲となる。遺跡西側は現鹿乗川が南北に走り、この西岸は碧海台地の東辺にあたる。東側は鹿乗川に平行する用水路で、これを挟んだ東側にも本遺跡は展開する。これまでの調査により、弥生時代、古墳時代、古代の集落等が確認されている。今年度の調査区は鹿乗川と水路に挟まれた区域で、南北に伸びる二つの堤防の間に設定された。遺跡の現地表が標高約8m、遺跡の主要検出部分は標高6～6.5mである。旧河道の調査最深部で標高4.5mとなった。

調査の概要 今回の調査の区域は東西に走る旧河道の南半分から南岸の自然堤防の頂部に相当する。遺構は2面あり、上面は現表土の洪水性堆積層である粗砂層下の青灰色シルト層面で標高7m、下面は旧河道自然堤防の白色シルト・細砂層面で同6～6.5mである。また、自然河道の湿地性堆積層の掘り下げを行った。

上面では、近世の土坑2基を検出した。大形方形土坑の細礫を主体とする埋土中より、19世紀前半の土師器、瀬戸窯産施釉陶器、磁器が出土した。この面から掘り込まれた溝が下面の旧河道の埋土上面で検出された。溝は自然堤防に平行して東西に走り、横断する杭列と俵状のものによって構築された堰が検出された。溝は検出面から深さ約0.8m、上面からは深さ1.9mを測る。土坑と同時期と考える。

下面では自然堤防上の基盤層面で整地層が確認された。10cmの層厚でシルトを主体とするブロック状でしまった土層である。須恵器片がわずかに出土している。遺構としては土坑、溝が検出された。自然河道の埋土は上層が灰色シルト、中層が黒褐色腐植質土、下層が白色砂質土である。中層の湿地性堆積土より木製品および加工痕のある自然木が出土した。主なものでは板材、表面を削った丸太材などが検出された。その他の遺物として、上層から古代の瓦、中層から須恵器が少量出土した。出土遺物から土坑及び溝は古墳時代後半から奈良時代、自然河道の埋積時期は奈良時代以降と考える。

ま と め 今後、遺跡の形成に関してボーリング調査など地質学的調査の分析成果を含めて検討を行う事が課題となる。(酒井俊彦)



近世 溝



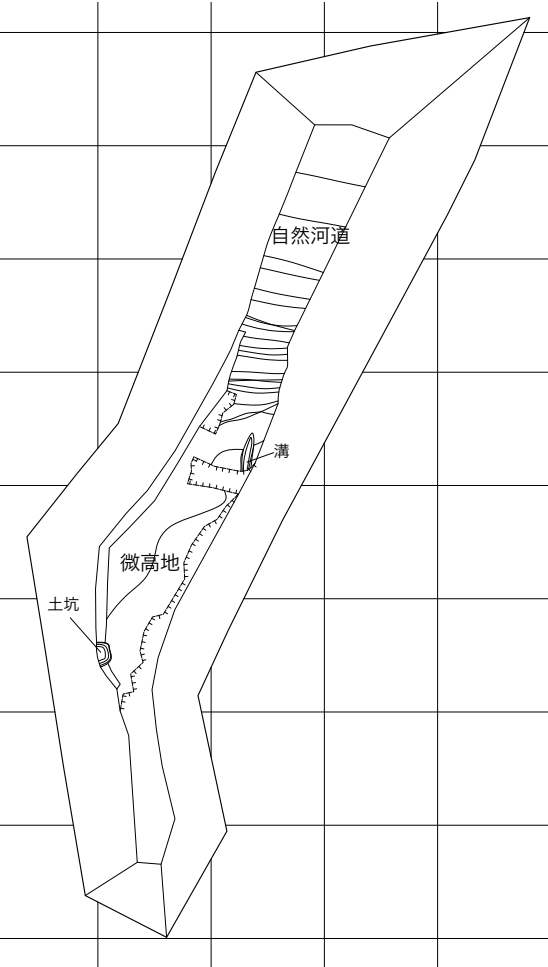
木製品 出土状況



古代 木製品



調査区 北半



調査区全体図 (下面)



調査区 南半

範囲確認調査 のぞえ 野添遺跡

所在地 豊橋市石巻本町野添・西下地
(北緯34度47分55秒 東経137度26分15秒)

調査理由 道路改良工事(主) 東三河環状線

調査期間 平成24年6月

調査面積 200㎡

担当者 松田 訓・永井邦仁



調査地点 (1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は、主要地方道東三河環状線改良工事にかかる事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。遺跡のうち事業対象地となる約2,000㎡に対して2m×10mを基本とするトレンチを総数19か所設定し範囲確認調査を実施した。過去には県道北側の玉川小学校地内で昭和57年度(1982)に豊橋市教育委員会が発掘調査を実施している。

立地と環境 遺跡は、豊川左岸の河岸段丘上に立地し、その南縁は石巻山方面から西流する神田川右岸に接する。神田川沿いの低地には昨年度当センターが10,630㎡を発掘調査した東下地遺跡が立地する。

調査の概要 今回の調査では、事業地の縁辺に沿って16か所のトレンチを設定し、さらに攪乱などの状況を確認するために事業地中央にも3か所のトレンチを設定した。うち北端(T.T.1)のみが全長20mと長くなっている。地層は、表土・包含層を約50cm掘り下げると基盤の黄褐色礫混じシルト層があり、その上面で遺構検出が可能であった。結果、ほぼ全てのトレンチで遺構・遺物を検出し、古代・近世を中心とする各時代の遺構がほぼ全面に残存していることが予想された。

T.T.1では中世から近世とみられる幅約2mの大溝が検出された。断面は箱葉研に近く、屋敷地区画としてもそれなりの格であったと思われる。この大溝は南へ延びてT.T.3でも一部が検出されている。T.T.3では明瞭な竪穴建物の隅部が検出された。上位の包含層からは8世紀末から9世紀前半の須恵器が多数出土した。このような竪穴建物の遺構はT.T.7、やや不明瞭ながらもT.T.4でも検出されており、台地上に広く展開しているものと思われる。T.T.4・9・12・16～18では掘立柱列が検出されたが、遺構内は掘削していないので時期は不詳である。概ね古代と近世の可能性が考えられる。T.T.14は南縁斜面にかかるトレンチであるが、台地上から造成などで崩落した土の中に古代の須恵器・灰釉陶器が多数含まれていた。しかし同様に設定したT.T.15では、唯一遺構・遺物ともに検出できなかったが、基盤層の断ち割りを実施し、上位の粘土層から下位の円礫層までを確認した。T.T.2・8など県道沿いのトレンチでは削平や攪乱もみられたが、概ね基盤層の状態が良く、ここでも遺構が濃密に展開する可能性が高い。

過去の発掘調査では、当該地点より北側で中世末・近世初頭の遺構・遺物が検出されている。このことから、台地奥部まで近世集落の広がりが想定されていたが、今回の調査では、台地縁辺近くで平安時代を中心とする時期の古代集落が展開している可能性が高まった。また、遺物には古墳時代初頭のものも若干含まれるので、当該期の遺構も想定される。

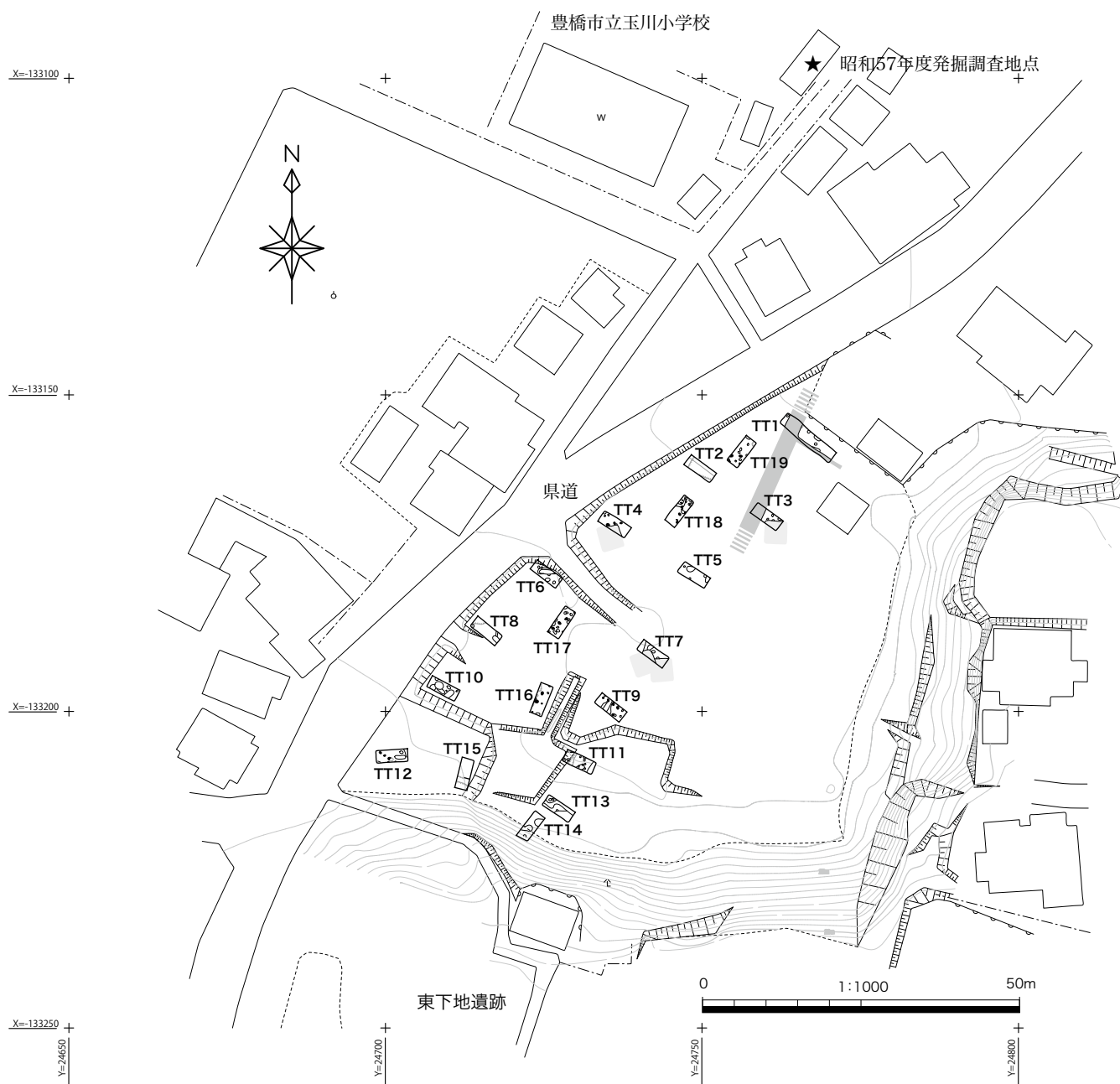
(永井邦仁)



全景（南西から）



TT03(南東から)



野添遺跡範囲確認調査トレンチ配置と成果概要

ひがしもしじ
東下地遺跡

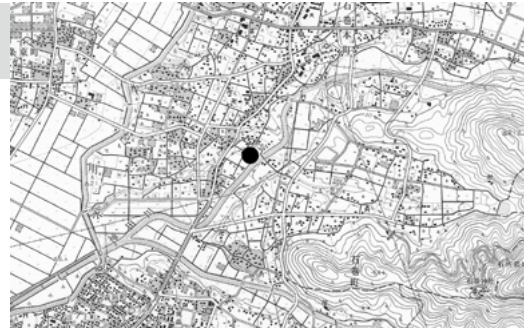
所在地 豊橋市石巻本町東下地ほか
(北緯34度47分52秒 東経137度26分16秒)

調査理由 道路改良工事(主) 東三河環状線

調査期間 平成24年7月

調査面積 274㎡

担当者 松田 訓・永井邦仁

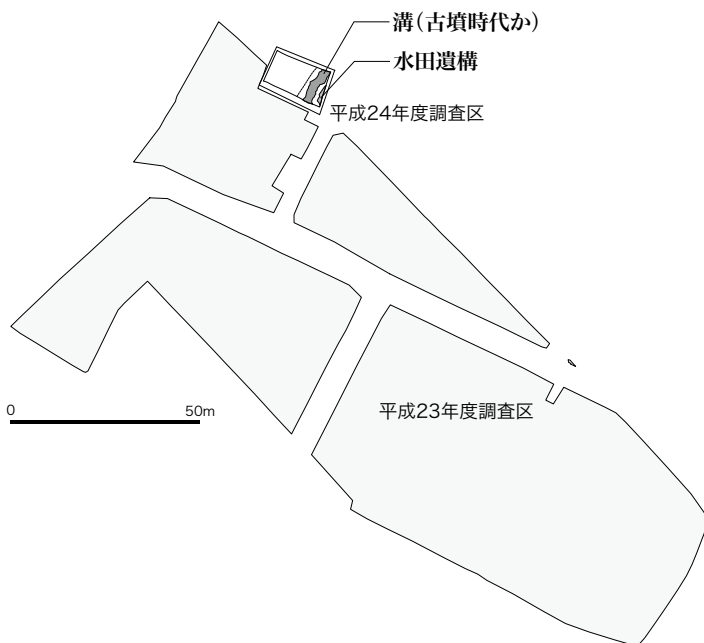


調査地点 (1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は、主要地方道東三河環状線改良工事にかかる事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。昨年度当センターは10,630㎡を発掘調査し、弥生～古墳時代の水田(畦畔)や、中世の土坑墓、掘立柱建物などが検出されている。

立地と環境 遺跡は、豊川左岸の河岸段丘南縁崖下に位置し、神田川右岸の低地に立地する。この低地は神田川の流路変動による影響を受けやすい環境にある。

調査の概要 今回の調査地点は昨年度調査区の北西隅にあたり、野添遺跡のある台地縁辺に近い地点である。南側と西側が既調査地であり、特に南側でみられた水田遺構とそれに伴う溝の延長が予想され、調査区東端付近で水田遺構と溝が検出された。溝は礫を多数含む水流の影響によって各所で決られ不定形である。遺物は摩滅の激しい土師器小片が若干出土したのみで古墳時代の可能性が考えられる。溝の東側に水田遺構が検出されたが出土遺物はなく時期不詳である。一方、調査区西半部は段丘崖の斜面にかかり、耕作地化などで削平されているため遺構は検出されなかった。(永井邦仁)



調査区位置と遺構概要



調査区全景(南東から)

設楽ダム工事関連遺跡範囲確認調査

にしち ひがしち
西地・東地遺跡

たきせ
滝瀬遺跡

所在地 北設楽郡設楽町大名倉字西地・東地、八橋字タキセ
(北緯35度6分40秒 東経137度32分40秒、北緯35度7分10秒 東経137度34分55秒)

調査理由 設楽ダム工事

調査期間 平成24年10月～平成24年11月

調査面積 120㎡

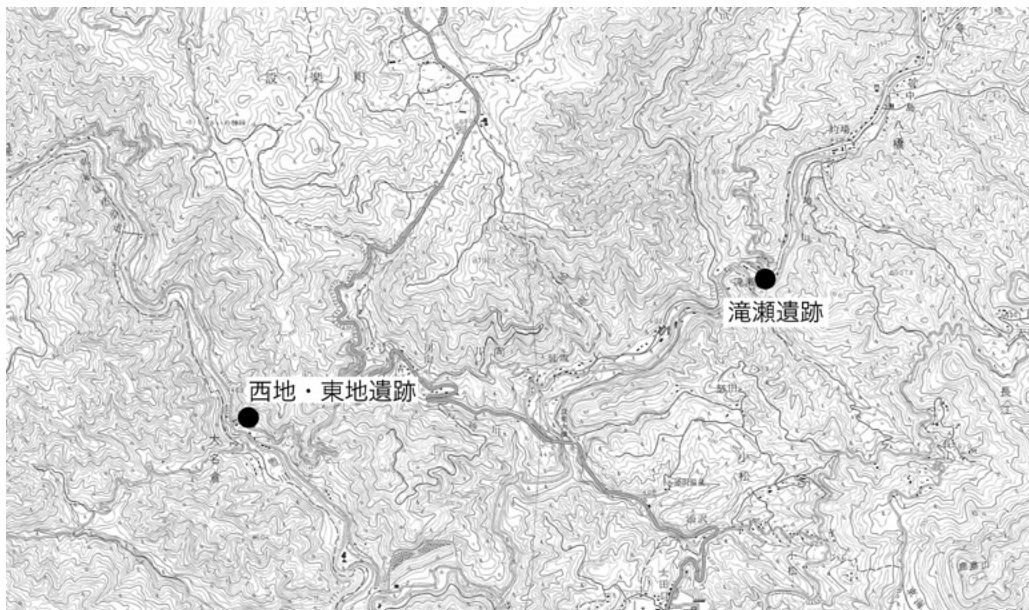
担当者 宮腰健司

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成24年10月～11月にかけて実施した。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、西地・東地遺跡31ヶ所、滝瀬遺跡26ヶ所のテストトレンチ(T.T.)を設定した。

立地と環境 西地・東地遺跡は標高約455～465mの寒狭川左岸の山麓緩斜面および河岸段丘面に、滝瀬遺跡は標高約420mの境川右岸の河岸段丘面に立地する。

調査の概要 西地・東地遺跡では3地点にテストトレンチを設けた。東地点では礫を多く含む谷地形の堆積を検出し、縄文土器、山茶碗、江戸時代後期の陶磁器が出土した。中地点では石垣と思われる石列を1ヶ所、石積みを2ヶ所検出したが、所属時期は不明である。戦国時代の陶器・播鉢・土師器、江戸時代後期の陶磁器が出土している。西地点ではT.T.29で3基の土坑を検出し、うち02SKより縄文土器が1点出土している。その他、古代の灰釉陶器、戦国時代の陶器・土師器、江戸時代後期の陶磁器が出土している。

滝瀬遺跡 滝瀬遺跡では、平成19年度に範囲確認調査を行った地点の西側の水田部分にテストトレンチを設けた。その結果、東側の17ヶ所のテストトレンチにおいて縄文時代早期～後期の土器やスクレーパー・叩石・磨石・石核・剥片などの石器が出土している。また7ヶ所のテストトレンチで土坑・落ち込み・高まり状遺構が検出された。さらに遺物・遺構が確認されない西側については、ゆるやかに落ち込む地形となる。(宮腰健司)

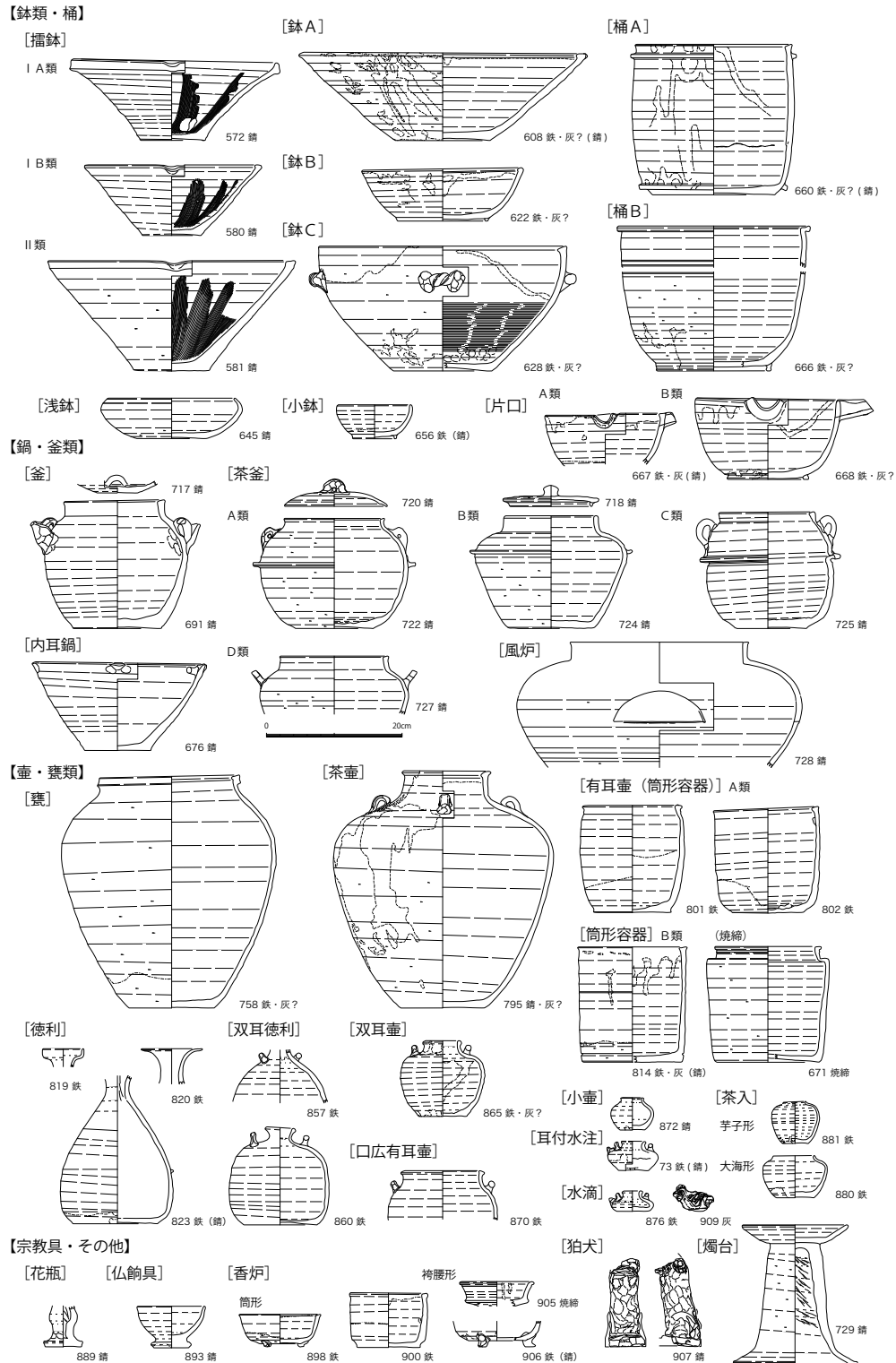


調査地点 (1/2.5万「田口」)

III. 刊行報告書抄録

第173集 上品野西金地遺跡

上品野西金地遺跡は、品野盆地北東に位置し、桑下城跡、桑下東窯跡から連続する丘陵斜面から低地にかけて立地する。丘陵斜面からは大窯期前半の陶器22,762点が出土した。出土した器種は多様で、保存状態も良好であることから、遺跡付近は周辺に流通する大窯陶器の集積地として利用されていたと推測される。その他、縄文時代後期中葉の貯蔵穴、古代・中世の掘立柱建物等を検出した。(早野浩二)



大窯期前半の陶器各器種 (碗皿類以外)

報告書抄録

ふりがな	かみしなのにしかねじいせき
書名	上品野西金地遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第173集
編著者名	早野浩二(編集)・川添和暁・パレオ・ラボAMS年代測定グループ・佐々木由香・バンダリ スタルジャン・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみしなのにしかねじ 上品野西金地 いせき 遺跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03710	35度 10分 50秒	136度 54分 01秒	1998.02.17 ～1998.03.01 2006.09.11 ～2007.03.27	100 3,400	一般国道 363号線 道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上品野西金地 遺跡	集落	縄文 古代 中世 戦国 近世	貯蔵穴 掘立柱建物 掘立柱建物、溝 土坑 掘立柱建物	石器、縄文土器 土師器、須恵器、灰釉陶器 山茶碗、古瀬戸陶器 大窯陶器 瀬戸美濃陶器、木製品	有舌尖頭器の出土 縄文時代の貯蔵穴の 検出 大窯期前半の陶器の 大量出土

文書番号	発掘届出(10埋セ第62号 平成11年2月27日) (18埋セ第10号 平成18年5月17日) 通知(10教文第61-3号 平成11年3月17日) (18教生第625号 平成18年6月22日) 終了届・保管証・発見届(10埋セ第115号 平成11年3月17日) (18埋セ第112号 平成19年3月27日) 鑑査結果通知(11教文第61-3号 平成11年5月22日) (19教生第466号 平成19年5月23日)
------	---

要約	上品野西金地遺跡は、品野盆地北東に位置し、桑下城跡、桑下東窯跡から連続する丘陵斜面から低地にかけて立地する。丘陵斜面からは保存状態が良好な大窯期前半の陶器が大量に出土したことから、遺跡付近は周辺に流通する大窯陶器の集積地として利用されていたことが推測される。 その他、縄文時代の貯蔵穴、古代・中世の掘立柱建物等を検出した。
----	--

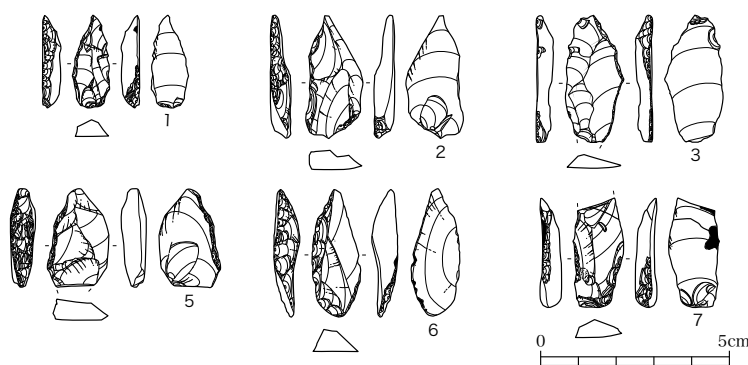
第174集 西牧野遺跡

本遺跡は岡崎市内旧額田郡額田町豊富地区に所在し、盆地地形の低位段丘上に立地する。2年度に渡る調査で本センターは前半の1年度を担当し、遺跡西半と東端部分の調査を行った。当初、中世が主体となる遺跡となる予定であったが、基盤層の洪積層内に旧石器時代遺物が存在することが明らかになり、旧石器時代が調査の中心となった。

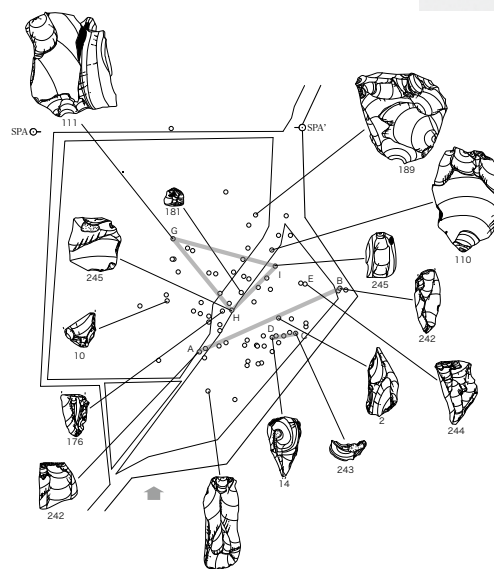
上面である基盤層面の調査では中世の集落、墓域に関連する遺構を検出した。掘立柱建物、竪穴状遺構によって構成され、溝によって区画される屋敷地を確認した。中世の墓域では、方形土坑墓群と14世紀代の地下式墳が検出された。その他、縄文時代の土坑、弥生時代方形周溝墓などの遺構を確認した。

基盤層内の調査では旧石器時代の石器および礫等が約1,400点出土した。遺物は関東南部の編年で第Ⅲ・Ⅳ期に相当し、ナイフ形石器・搔器・削器・石錐・角錐状石器等が出土した。石材は第Ⅲ期は凝灰岩、第Ⅳ期は黒曜石が主体となる。層序および遺物出土状態から原位置より移動した再堆積層と原位置を保つ2種類の出土状況が認められる。約900点の遺物が集中した部分は旧河道に緩やかに傾斜する地形で約80cmの土層が基本3層に分層され、第Ⅲ・Ⅳ期の石器類が混在した状態で出土している。旧河道から離れた地点で第Ⅳ期の石器が水平面で集中して検出され、この時期の文化層面が確認された。石核と製品、細片が出土し、石器製作が行われたと推定される。

今回の調査後、遺跡の東半が愛知県埋蔵文化財調査センターによって調査され、第Ⅲ期を主体とする時期の遺物が出土している。この調査成果を含め、県内の調査資料を集積して旧石器時代遺物の編年を検討することが今後の課題となる。(酒井俊彦)



ナイフ型石器



C区TP石器出土状態

報告書抄録

ふりがな	にしまきのいせき
書名	西牧野遺跡
副書名	
巻次	1
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第174集
編著者名	酒井俊彦
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしまきのいせき 西牧野遺跡	あいちけんおかざきし 愛知県岡崎市 かしやまちょう・まきひらちょう 檜山町・牧平町	23202	620028	34度 54分 54秒	137度 17分 04秒	2009.04.01 ～2010.03.31	13,440	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西牧野遺跡	集落	旧石器 中世	旧石器時代遺物包含層 掘立柱建物 土坑 溝 土坑墓 地下式墳 竪穴状遺構	ナイフ形石器 削器 搔器 山茶碗 土師器 古瀬戸施釉陶器	

文書番号	発掘届出（21埋セ第4号 平成21年4月3日） 発掘許可（21教生第199号 平成21年4月23日） 調査終了届（21埋セ第132号 平成22年3月8日） 遺物発見届（21埋セ第132号 平成22年3月8日） 埋蔵文化財保管証（21埋セ第132号 平成22年3月8日） 埋蔵文化財認定（21教生第2891号 平成22年3月29日）
------	--

要約	西牧野遺跡は岡崎市東部の三河山地に所在する遺跡である。矢作川支流である男川左岸の河岸段丘上に立地する。段丘洪積層より旧石器時代のナイフ形石器、削器、搔器、石器剥片・石核など約4,400点が出土した。部分的に文化層面を検出し、礫群が確認された。主体となる時期は関東南部の編年で第Ⅲ・Ⅳ期である。洪積層上面で、縄文時代中-晩期、弥生時代中期、中世、近世の遺構が検出された。中心となるのは中世で、掘立柱建物、土坑、溝、土坑墓、地下式墳が検出され、集落とそれに対応する墓域が確認されている。遺物は山茶碗、瀬戸窯産施釉陶器、土師器などが出土した。
----	--

第175集 下津宿遺跡

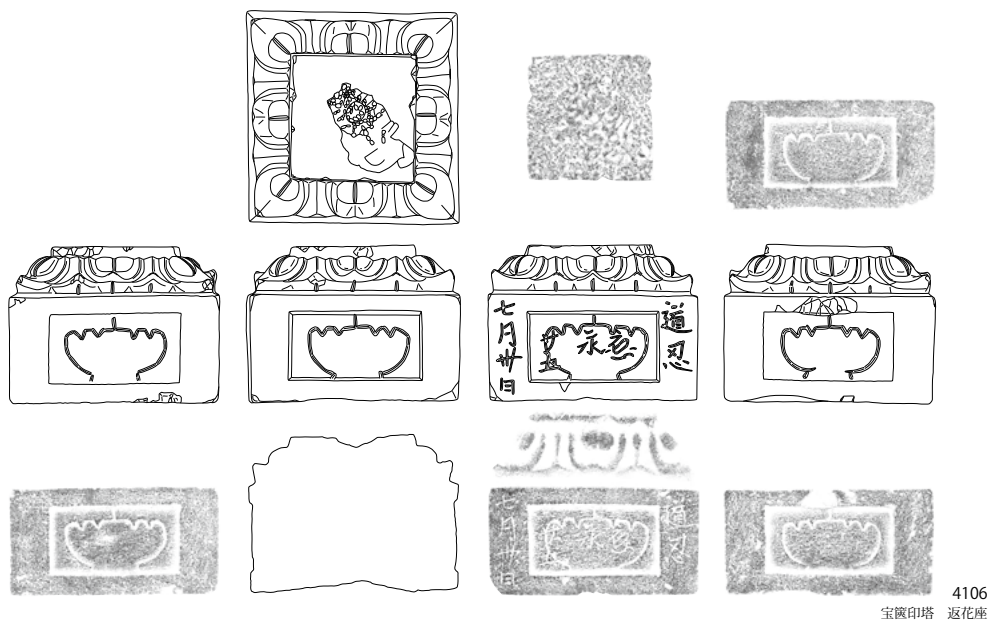
稲沢市下津宮西町および下津本郷町に所在する下津宿遺跡は、室町期に尾張守護所が置かれ、遺跡を縦断する鎌倉街道とともに、尾張の政治・経済の中心地として栄えたことが、多くの文献からもわかっている。

平成22・23年度の2カ年にわたる調査では、本遺跡は平安後期（10世紀代）に形成され、鎌倉期（13世紀第2四半期）以降は継続して人の集住が認められることがわかった。

地籍図からの検討どおり、10Ea・Ec区では鎌倉街道とみられる道状遺構を確認した。路面幅は約15mを測り、10Ec区においては、人工の盛り土による大規模な造成をおこなっていた。

さらにこの盛り土の下層で確認された井戸からは、応永25（1418）年の紀年銘をもつ宝篋印塔が出土したこと、さらに造成土内出土の土器により、本遺跡内における鎌倉街道の整備が15世紀の第2四半期～第3四半期にかけておこなわれたことが明らかとなった。

文献上、守護所の初出が1411年であることから、守護所の設置後ほどなく鎌倉街道が整備され、さらにこの街道に面して多数の大寺院や屋敷地、さらには商工業者による市や工房が展開したことが明らかとなった。（樋上 昇）



10Ec区0900SE出土の「応永廿五年」銘宝篋印塔

報告書抄録

ふりがな	おりづしゅくいせき
書名	下津宿遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第175集
編著者名	樋上 昇・鈴木正貴・鬼頭 剛・蔭山誠一・永井邦仁・鶴飼雅弘・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おりづしゅくいせき 下津宿遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 おりづみやにしょう 下津宮西町 おりづほんごうちょう 下津本郷町	23220	090001	35度 15分 20秒	136度 49分 52秒	2010.05.01 ～2011.03.18 2010.04.18 ～2011.06.29	8,830	県道名古屋 豊山稲沢線 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下津宿遺跡	集落	平安～ 室町	掘立柱建物 竪穴建物 道路状遺構 溝、土坑	山茶碗、古瀬戸 白磁、青磁、青白磁、 宝篋印塔、五輪塔、 井戸杵、曲物底板	中世鎌倉街道と 推定される道状 遺構、応永25年 の紀年銘をもつ 宝篋印塔

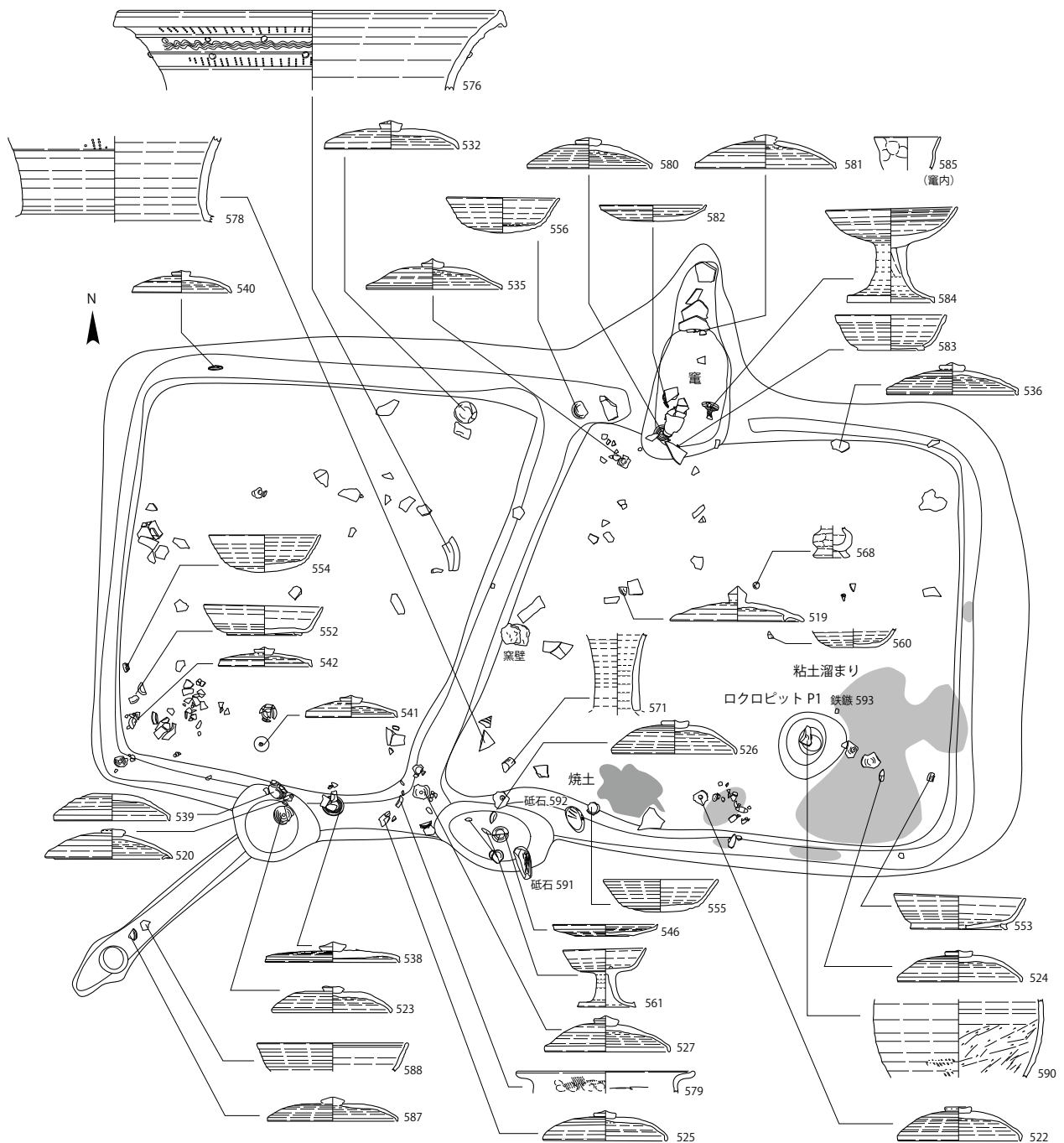
文書番号	発掘届出：埋文（21埋セ第147-1号） 発掘届出：県教委（22教生第196号） 発掘届出：埋文（22埋セ第261号） 発掘届出：県教委（22教生第2792号） 完了報告（22埋セ第268号） 完了報告（23埋セ第52号） 文化財認定（23教生第96号） 文化財認定（23教生第1617号）
------	--

要約	室町期に尾張守護所が置かれた遺跡の調査。平安後期から遺構の形成が始まり、15世紀第2四半期～第3四半期にかけて、鎌倉街道が整備される。これに伴い大溝で区画された都市的景観が出現することが明らかとなった。この鎌倉街道の造成土で埋め立てられた井戸から応永25年の紀年銘をもつ宝篋印塔が出土した。
----	---

第178集 東中田A古窯

東中田A古窯は、一里山窯跡群または湖西窯跡群一里山支群の一角に分布する須恵器窯である。

窯体は大部分が破壊されていたが、反対側の斜面において灰原と別の窯体に付属する土坑、窯体付近において竪穴建物2棟を検出した。竪穴建物は粘土溜まりとロクロピットが付属することから、居住施設兼作業施設として利用されたと考えられる。古窯跡は出土須恵器から7世紀後葉から8世紀前葉にかけて操業したと推測される。確認した須恵器の器種は杯類、(小型の)皿類?、高杯、高盤、鉢、陶白、甕、広口壺、甕、長頸瓶(無蓋長頸瓶、有蓋長頸瓶、大型長頸瓶)、フラスコ形長頸瓶、平瓶(大型平瓶を含む)、小杯、円面硯、陶錘、陶馬等で、その他、土師器甕、製塩土器が出土した。(早野浩二)



竪穴建物003SX 遺物出土状況

報告書抄録

ふりがな	ひかしなただえーこよう
書名	東中田A古窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第178集
編著者名	早野浩二（編集）・パレオ・ラボAMS年代測定グループ・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひかしなただえーこよう 東中田A古窯	あいちけんとはしし 愛知県豊橋市 ひかしほそやちょう 東細谷町	23201	790712	34度 41分 33秒	137度 28分 52秒	2007.07.02 ～2007.10.06	1,591	一般国道 23号豊橋東 バイパス 建設

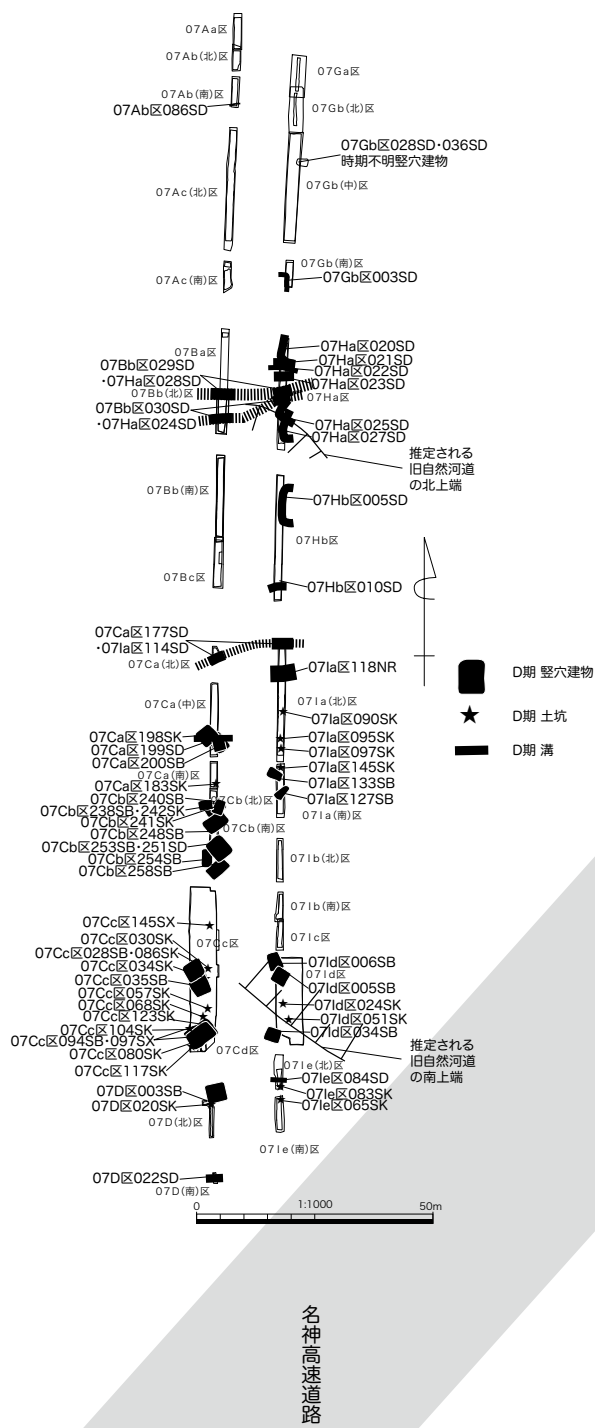
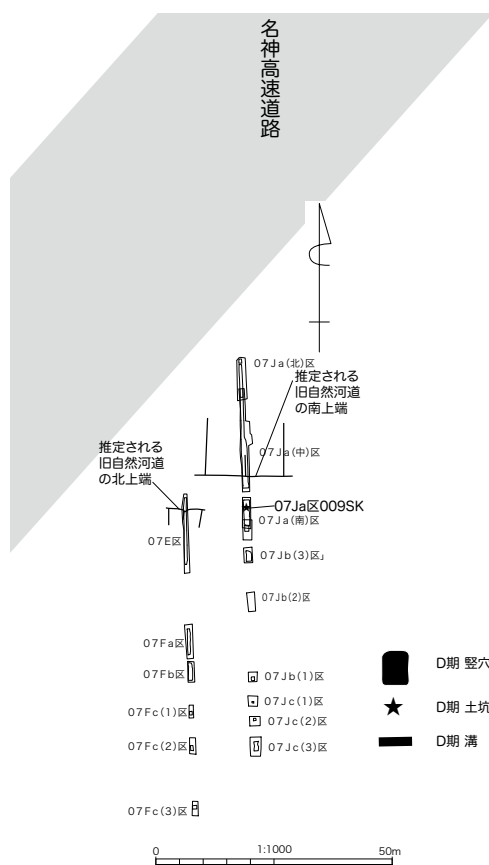
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東中田A古窯	古窯	古代	窯体 灰原 土坑 竪穴建物	須恵器・土師器 製塩土器 石製品 鉄製品	灰原出土須恵器 焼成不良杯類の集積 竪穴建物で粘土溜まり とロクロピットを検出

文書番号	発掘届出（19埋セ第22号 平成19年5月23日） 通知（19教生第639号 平成19年7月2日） 終了届・保管証・発見届（19埋セ第69号 平成19年10月17日） 鑑査結果通知（19豊教美第331号 平成19年10月25日）
------	---

要約	東中田A古窯は、一里山窯跡群または湖西窯跡群一里山支群の一角に分布する須恵器窯である。窯体は大部分が破壊されていたが、反対側の斜面において灰原と別の窯体に付属する土坑、窯体付近において竪穴建物2棟を検出した。竪穴建物は粘土溜まりとロクロピットが付属することから、居住施設兼作業施設として利用されたと考えられる。古窯跡は出土須恵器から7世紀後葉から8世紀前葉にかけて操業したと推測される。
----	---

第179集 町屋遺跡

町屋遺跡は愛知県一宮市の南東部に位置する遺跡で、弥生時代中期前葉から弥生時代中期後葉の竪穴建物24棟・土坑35基・溝24条と弥生時代後期から古墳時代前期初頭の竪穴建物1棟・方形周溝墓1基・土坑3基・溝3条、古代の土壇墓3基、中世から近世の土坑11基・溝18条を確認し、報告した。今回の発掘調査成果とこれまでの調査地周辺にて採集された資料の調査によって、これまで内容が不明であった当遺跡について、遺跡の範囲が南北約370m、東西約200mの範囲に広がることを明らかにした。また、遺構変遷と出土遺物の検討から弥生時代中期前葉から遺跡が形成され、弥生時代中期後葉にかけて居住域が広く展開し、同時に弥生時代中期中葉後半から方形周溝墓からなる墓域が形成されることを指摘した。続く弥生時代後期には居住域と墓域の範囲が急速に小さくなり、古墳時代には遺構が消滅することを明らかにした。そして古代に遺跡の北側に墓が小規模に形成され、中世から近世にかけて土坑や用水路と思われる溝が営まれたことを明らかにした。(陰山誠一)



町屋遺跡の遺構変遷

(A期: 弥生時代中期前葉、
B期: 弥生時代中期中葉前半、
C期: 弥生時代中期中葉後半)

報告書抄録

ふりがな	まちやいせき
書名	町屋遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第179集
編著者名	蔭山誠一・永井邦仁・永草康次・藤根 久・米田恭子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前々須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まちやいせき 町屋遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 ちあきちようまちや 千秋町町屋	23203	020034	35度 17分 30秒	136度 51分 44秒	2007.11 ～2008.02	1,600	県道名古屋 江南線道路 拡幅工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町屋遺跡	集落	弥生中期前葉 ～中期後葉	竪穴建物24棟・ 土坑35基・溝24条	弥生土器・磨製石剣・管玉・ 磨製石斧・石鏃・石錐・敲石 ・凹み石・磨石・砥石・露石 ・炉縁石	弥生時代中期から 弥生時代後期にお ける集落跡を確認。
		弥生後期 ～古墳前期	竪穴建物1基・方形 周溝墓1基・土坑3基 ・溝3条	弥生土器・ガラス小玉	
		古代	土坑3基	須恵器・土師器	
		中世～近世	土坑11基・溝18条	土師器・山茶碗・掃除機	

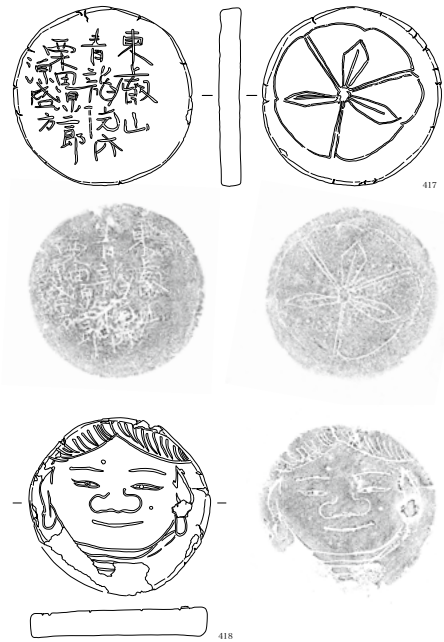
文書番号	発掘届出（19埋セ第51号 平成19年8月23日） 通知（19教生第1305号 平成19年8月31日） 終了届・発見届・保管証（19埋セ第115号 平成20年3月11日） 監査結果通知（19教生第2968号 平成20年3月24日）
------	--

要約	今回の発掘調査成果とこれまでの調査地周辺にて採集された資料の調査によって、これまで内容が不明であった当遺跡について、遺跡の範囲が南北約370m、東西約200mの範囲に広がることを明らかにした。また、遺構変遷と出土遺物の検討から弥生時代中期前葉から遺跡が形成され、弥生時代中期後葉にかけて居住域が広く展開し、同時に弥生時代中期中葉後半から方形周溝墓からなる墓域が形成されることを指摘した。続く弥生時代後期には居住域と墓域の範囲が急速に小さくなり、古墳時代には遺構が消滅することを明らかにした。そして古代には、遺跡の北側に墓が小規模に形成され、中世から近世にかけて土坑や用水路と思われる溝が営まれたことを明らかにした。
----	---

第180集 滝町古窯

岡崎市滝町に所在する滝町古窯は、19世紀第2四半期頃を操業時期とする窯跡遺跡である。青木川右岸の丘陵先端付近、標高50m前後の西向き斜面に窯体1基と物原の一部が検出された。生産器種は磁器の小型碗類(広東碗・端反碗・筒形湯呑)が中心であり、これに少量の陶器製品(小型の碗類・急須・行平など)が加わる。磁器製品は器形と染付文様ともに瀬戸窯製品と区別が困難なほど似通っている。窯体は全長約11m、最大幅は推定で5.5m程度の規模をもつ縦狭間構造の連房式登窯であり、やはり瀬戸窯の技術を導入して成立したと考えられる。

窯がつくられた地点は、江戸時代を通じて天台宗瀧山寺の寺領であった土地であり、しかも出土した窯道具の中に上野寛永寺とのつながりを示す刻書が発見された。瀧山寺は近世初期に寛永寺の末寺となっており、滝町古窯の成立・経営に大きく関与したと考えられる。(武部真木)



刻書・刻画のある窯道具



調査区全体図

報告書抄録

ふりがな	たきちょうこよう							
書名	滝町古窯							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第180集							
編著者名	武部真木(編集)・堀木真美子							
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦2013年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
たきちょうこよう 滝町古窯	あいちけんおかざきし 愛知県岡崎市 たきちょう 滝町	232025	510330	34度 59分 04秒	137度 12分 01秒	2008.04 ～2008.10	400	急傾斜地 崩壊対策 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
滝町古窯	窯跡	江戸	窯体1基 物原	近世陶磁器・窯道具類		「東叡山」刻書のある エブタなど		
文書番号	発掘届出(20埋セ第1号) 通知(20教生第204号) 終了届(20埋セ第74号) 発見届・保管証(20埋セ第74号) 監査結果通知(20教社第722-1号)							
要約	19世紀第2四半期頃に操業した窯跡の調査。連房式登窯(1基)と物原の一部を確認した。磁器の小型の碗類を中心に焼成しており、製品の特徴や焼成技術などは瀬戸地域の窯跡と共通する部分が多い。天台宗瀧山寺の領内にあり、この寺院が経営に関与していた可能性が高い。							

第181集 桑下城跡

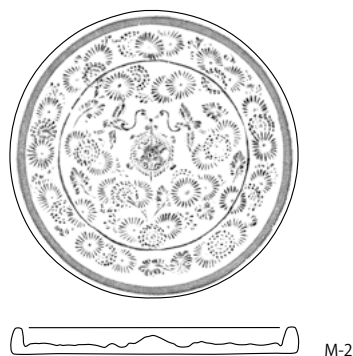
桑下城跡は瀬戸市上品野町地内に所在し、瀬戸市の北東部丘陵地に立地する。発掘調査は、国道363号道路改良工事に伴う事前調査として平成16・19・20・21年度に実施され、整理と報告書作成作業は平成22・23年度に、報告書刊行は平成24年度に行った。

桑下城は、近世の城館絵図「春日井郡上品野村古城絵図」（蓬左文庫蔵）に見られる。絵図は廃城後の状況が描かれ、本丸の北堀の一部は「水堀」として、本丸の北東部分に土塁、本丸の東と南側に曲輪が描かれているが、本丸の西側は「芝」と書かれ曲輪はない。蓬左文庫蔵の絵図作成は正保年間（1645～1648）にはじまり、慶安（1648～1652）もしくは承応年間（1652～1655）の初期には完了したと推測されている。

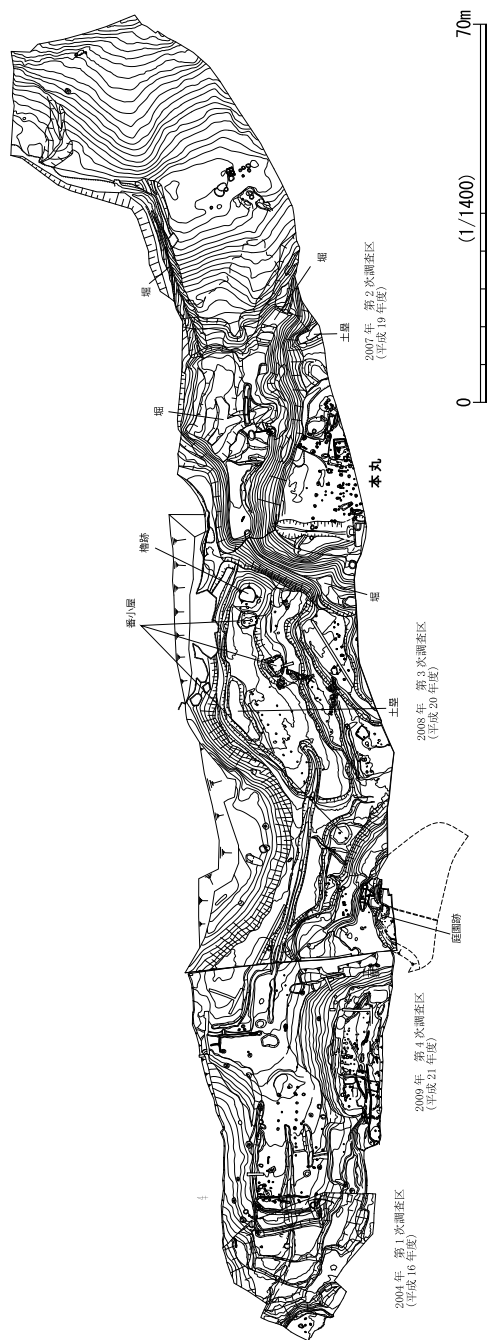
調査範囲は城の北側、裏手部分の一部で桑下城全域の調査ではない。西、北、東の三方に空堀を巡らせた本丸と、その西側、「古城絵図」では「芝」と書かれた場所に櫓台と土塁、曲輪、さらに西側にも曲輪群が続き合計14ヶ所の削平地、曲輪、腰曲輪が構えられていた。本丸部分と西側部分では曲輪の規模の違いが見られ、地形の制約もあるが、在地領主の屋敷を拡大し居館、城へと丘陵を造成していったようである。

出土陶器片より点数が多い時期は後期Ⅳ新（1460～1480）段階から大窯2（1530～1560）段階で、隆盛した時期は大窯1（1480～1530）段階となる。常滑産甕は常滑編年10型式で15世紀第3四半期頃、いずれにしても城の成立が15世紀後半以降、廃城の時期は松平氏と織田氏との同盟関係成立後と考えられる。

北東堀から出土した鏡面が映る菊花双鶴鏡は、熊野速玉大社の古神宝中の鏡と類似点が多いことから、14世紀中頃に製作された鏡で伝世品である。毛彫りによる精緻な唐草文の鋳形台が09区9曲輪より出土した。（小澤一弘）



菊花双鶴鏡 拓影



調査区全図

報告書抄録

ふりがな	くわしたじょうあと
書名	桑下城跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第181集
編著者名	小澤一弘・武部真木・堀木真美子・宇佐見 守・伊奈和彦
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くわしたじょうあと 桑下城跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	030624	35度 15分 24秒	137度 08分 19秒	1次 2005.01 ～2005.03 2次 2007.08 ～2008.03 3次 2008.08 ～2009.03 4次 2009.09 ～2010.01	10,400	国道363号 道路改良 工事

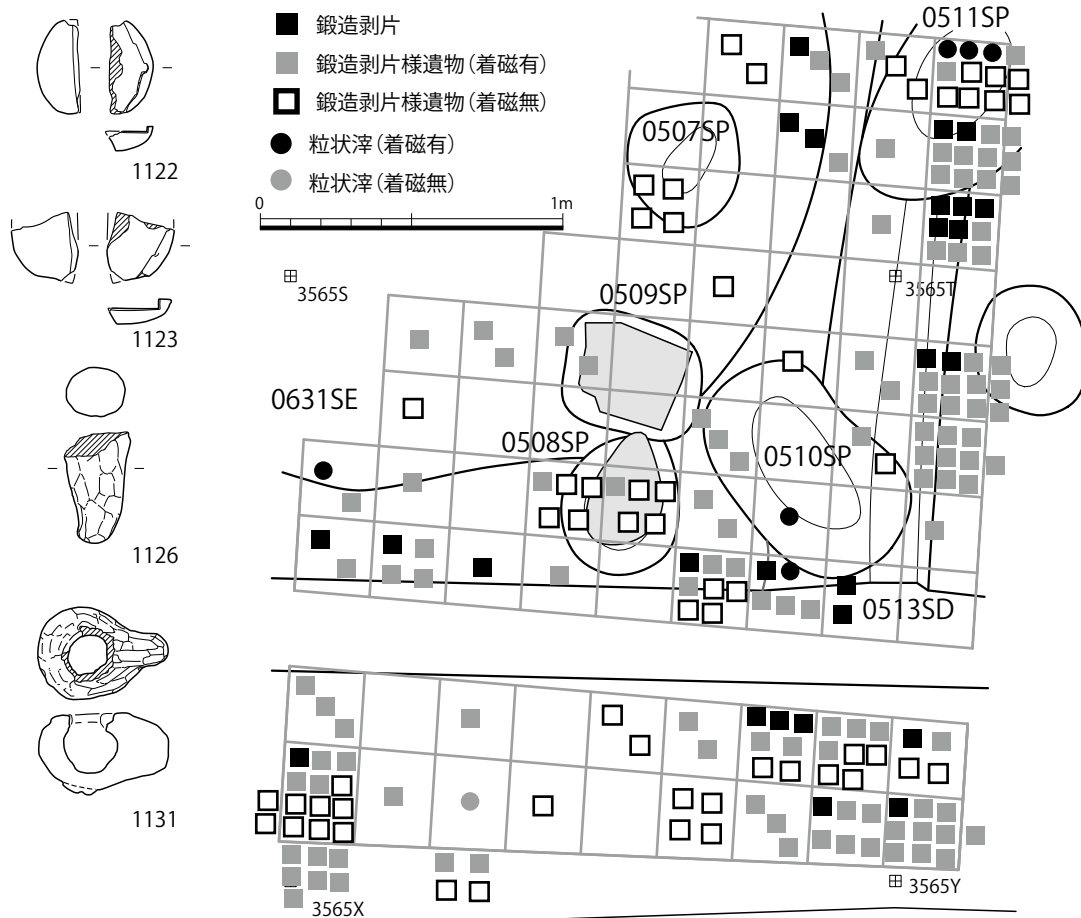
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桑下城跡	城館	戦国	堀 礎石建物 掘立柱建物 竪穴状遺構 土塁 柵列 庭園 井戸	菊花双鶴鏡、鍬形台、 鴛・猪・兎・水鳥の水滴、 茶入、両面硯、砥石、茶臼、 一字一石経、漆器椀、杓子、 竈、床板、鋤状板、 横槌、陽物、連歯下駄、 瓦塔、細石核	07区北東堀より 鏡面が現在でも映 る菊花双鶴鏡が出土 09区9曲輪で焼土 層を確認、鍬形台、 髪簪が出土

文 書 番 号	平成 16 年度 発掘届出（16 埋セ第 70 号） 通知（16 教生第 1569 号） 終了届（16 埋セ第 143 号） 発見届・保管証（16 埋セ第 143 号） 監査結果通知（16 教生第 2143 号）
	平成 19 年度 発掘届出（19 埋セ第 37 号） 通知（19 教生第 950 号） 終了届（19 埋セ第 124 号） 発見届・保管証（19 埋セ第 124 号） 監査結果通知（20 教生第 289 号）
	平成 20 年度 発掘届出（20 埋セ第 42 号） 通知（20 教生第 1045 号） 終了届（20 埋セ第 114 号） 発見届・保管証（20 埋セ第 115 号） 監査結果通知（20 教生第 3276 号）
	平成 21 年度 発掘届出（21 埋セ第 47 号） 通知（21 教生第 1038 号） 終了届（21 埋セ第 109 号） 発見届・保管証（16 埋セ第 109 号） 監査結果通知（20 教生第 2715 号）

要 約	『古城絵図』に描かれた「本丸」の北側と本丸西側の「芝」部分の調査。本丸の周りは西堀（薬研堀）、北西堀（箱堀）、北堀、北東堀、東堀（薬研堀）の堀が、本丸北辺に礎石建物 1 棟と掘立柱建物の柱穴、本丸西側から平坦に削平された曲輪が 04 区 8 箇所、09 区 9 箇所、08 調査区 14 箇所を調査した。竪穴状遺構 3 棟、庭園の一部、09 区 9 曲輪では焼土層を含む 3 面を確認した。丘陵全体を利用した館城で、屋敷地から居館、そして大規模な改修による城への変化が見られる三河と尾張の国境の城である。
-----	--

第183集 清洲城下町遺跡 XI

清須市に所在する清洲城下町遺跡は、五条川流域の沖積低地にあり、その自然堤防から後背湿地に立地する。今回の調査地点は、清須城の南辺中堀の外側に位置し、武家屋敷域の南端部に相当する。調査の結果、4期に大別される遺構や遺物が確認された。調査成果は多岐にわたるが、戦国時代から江戸時代初期までの城下町期を中心に金属製品加工に関連する遺構や遺物が多数確認されたことが最も注目される。こうした金属加工は、大窯第2段階から第3段階頃（16世紀中頃）に本格的に開始されたとみられるが、この段階の屋敷割は復元が困難な状態である。最終的に、織田信雄の清須大改修を経て短冊型地割を呈する町屋が形成され、そこで操業が営まれるようになったと考えられる。織豊系城下町の発展過程を考える上で貴重な資料になったといえよう。（鈴木正貴）

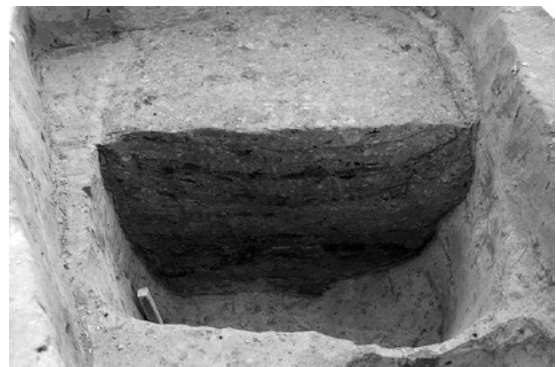


鍛造関連遺物実測図

石埋設遺構周辺の鍛冶関連遺物出土分布図



石埋設遺構0508SP・0509SP



0353SK土層断面

報告書抄録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき じゅういち
書名	清洲城下町遺跡 XI
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第183集
編著者名	鈴木正貴・鈴木恵介・奥野絵美・鬼頭 剛・大澤正己・鈴木瑞穂・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きよすじょうかまち 清洲城下町 いせき 遺跡	あいちけんきよすし 愛知県清須市 きよす 清洲	23233	210002	35度 02分 58秒	136度 06分 57秒	2010.04.19 ～2010.08.31 2011.08.17 ～2011.12.27	2,390	街路新設 改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
清洲城下町 遺跡	集落	奈良～平安	竪穴建物、土坑など	須恵器、土師器、灰釉陶器など	金属加工を操業した 清須城下町の町屋 に関する良好な一括 資料
		鎌倉～室町	井戸、溝など	山茶碗類、土師器、木製品など	
		戦国～ 江戸初期	掘立柱建物、溝、井戸、 土坑、鍛冶遺構など	瀬戸美濃窯産陶器、土師器、 木製品、金属関連遺物など	
		江戸	礎石建物、井戸など	陶磁器、土師器、瓦など	

文書番号	発掘届出（21埋セ第146号）（23埋セ第57号） 通知（22教生第119号）（23教生第1020号） 終了届・保管証・発見届（22埋セ第141号）（23埋セ第140号）
------	---

要約	今回の調査で確認された遺構や遺物は、古代・中世・城下町期・近世の4期に大別される。中でも戦国時代から江戸時代初期にかけての城下町期では、前期では武家屋敷群の南端が、前期後葉から後期では町屋が展開したとみられる。特に、町屋が展開した段階では、長方形土坑などの遺構が重複して多数検出され、これらの遺構から陶磁器・土器類とともに多量の金属関連遺物が出土した。鍛造剥片や鋳型の存在から、鍛錬鍛冶や鋳造作業が行われていたと推定され、16世紀中頃以降に付近一帯が金属加工を中心とした町屋が存在したことが明らかとなった。
----	---

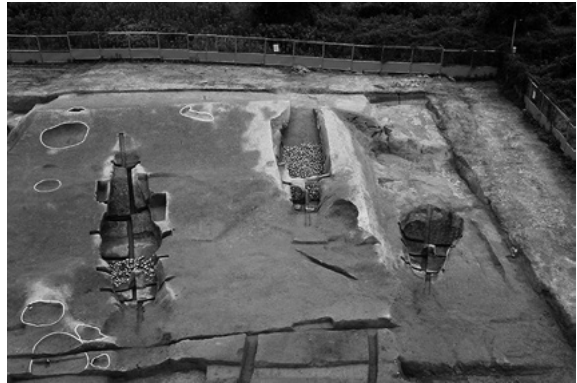
第187集 別嶺古窯群

別嶺古窯群は大府市共和町別嶺に所在し、猿投窯鳴海地区有松支群の南端部に位置する古窯となる。発掘調査は内陸用地造成事業に伴い、平成21年5月に範囲確認調査、平成22年4月～7月には面積1,200㎡の本調査を実施した。

発掘調査の結果、窯体3基(001SY～003SY)とこれらに伴う灰原や築窯排土整地層、土坑数基を検出した。

このうち、001SYは天井部の一部と窯体の床面がほぼ残存しており、全長が11.1m。焼成室最大幅は2.6mをはかる。002SYは煙道部を失っているが、焼成室の天井部がほぼ残存する。各窯体の断ち割り調査の結果、001SYと002SYで焼成不良の椀を敷き詰めた床面下施設を確認できた。なお、窯体の前後関係は、001SY→003SY→002SYと変遷することが確認されている。

出土遺物はその大半が001SY～003SYの焼成品である灰釉系陶器(山茶碗)とその窯道具(焼台)である。製品は、碗・小碗(小皿)にほぼ集約された単純なものとなっており、操業期間は12世紀中頃～13世紀前半と想定する事ができる。(池本正明)



全体図 1:400

報告書抄録

ふ り が な	べっそこようぐん							
書 名	別唄古窯群							
副 書 名								
巻 次								
シ リ ー ズ 名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第187集							
編 著 者 名	池本正明・石井香代子・藤根 久・菊池有希子・小林克也・井上 巖							
編 集 機 関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発 行 年 月 日	西暦2013年3月31日							

ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
べっそこようぐん 別唄古窯群	あいちけんおおふし 愛知県大府市 きょうわちょうべっそ 共和町別唄	23223	440042	35度 03分 02秒	136度 56分 27秒	2010.05 2011.04 ～2011.05	100 1,200	内陸用地 造成

所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
別唄古窯群	窯跡	平安～ 鎌倉前期	窯体3基 灰原 土坑	中世陶器		残存状態が良好な 窯体

文 書 番 号	発掘届出（21埋セ第3号 平成21年4月2日）（22埋セ第130号 平成22年3月10日） 通知（21教生第293号 平成21年5月7日）（22教生第2642号 平成22年3月26日） 終了届・保管証（21埋セ第28号 平成21年5月28日）（22埋セ第119号 平成22年7月16日） 監査結果通知（21教生第1093号 平成21年8月18日）（22教生第2088号 平成22年12月24日）
---------	--

要 約	001SY～003SYと命名した3基の窯体を検出している。このうち2基は残存状況が良好で、001SYは天井部が部分的に残存し、床面がほぼ全形を留める。002SYは煙道部を失うが、焼成室は天井部を含めてほぼ残存している。なお、001SYと002SYでは焼成不良の碗を敷き詰める床面下施設も確認している。
-----	--

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成24年度 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について

1 目的

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開し、また、学術経験者による講演会を開催することによって、県民の埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、郷土に残された先人の歴史を考え、文化財保護意識の向上を図る。

2 主催

愛知県陶磁資料館

(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

愛知県公立大学法人 愛知県立大学

愛知県教育委員会

中日新聞社

3 後援

愛知高速交通株式会社

4 埋蔵文化財展

1) 会場

愛知県陶磁資料館 本館 第1展示室・第2展示室・特別展示室

2) 会期

平成24年7月28日(土)～9月30日(日)

3) 展覧会名

「戦国のあいち

—信長の見た城館・陶磁・世界—

4) 開催趣旨

本展では、歴史文化の調査研究に携わる愛知県の諸機関が連携して、戦国時代の愛知県域について探求・紹介する。信長登場とその前後の時期に焦点をあて、尾張国の中核的な城館とマチ、やぎもの、ヨーロッパの宣教師たちが見た愛知県域の姿などを通じて、戦国時代の人びとの暮らし・モノづくり・世界との関わりを紹介する。

この他に、特集陳列I「東海最大の弥生集



ちらし表



ちらし裏

落一朝日遺跡の至宝」では、本年新たに重要文化財に指定された朝日遺跡(清須市ほか)出土品等によって、弥生土器の造形美を展示紹介し、また、特集陳列2「愛知県埋蔵文化財センター発掘調査の風景」では、同センターの20年以上にわたる調査・研究活動の軌跡を、遺跡調査の写真パネルによってたどる。

5) 展示構成

(1) 信長を生んだ戦国尾張

ー発掘された尾張守護所ー

戦国期尾張の政治的拠点の変遷を、遺跡出土の陶磁器・金属製品・木製品など約250点を通じて解説した。

A 下津(寺院の痕跡・宿のにぎわい・武家儀礼) 下津宿遺跡出土遺物

B 清須(居館と武家屋敷・武家儀礼・祈り・流通の拠点・鍛冶屋町) 清洲城下町遺跡出土遺物

C 岩倉(居館と武家屋敷・武家儀礼・祈り)

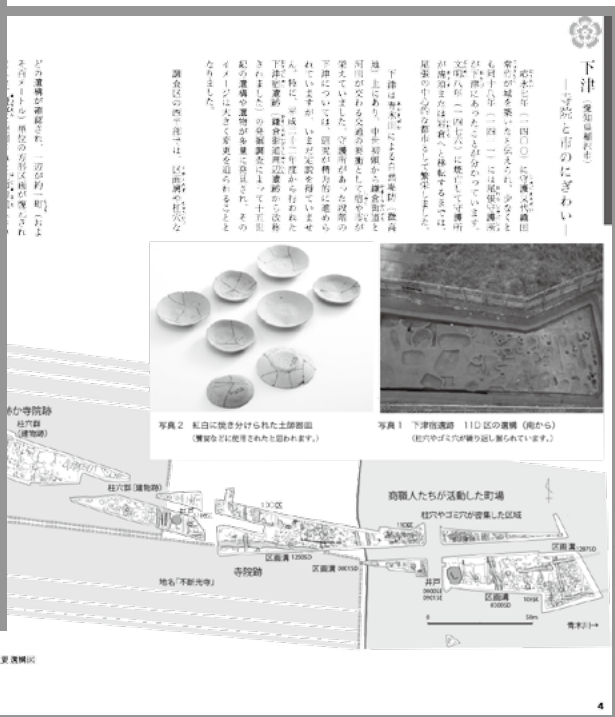


リーフレット表紙

リーフレット p14



14



リーフレット p4-5

岩倉城遺跡出土遺物

D 小牧(町屋の生活・鍛冶屋町・近世的城郭)

小牧山城跡・上御園遺跡・新町遺跡出土遺物

E 再び清須(短冊型地割の町屋・近世的城郭・天正地震) 清洲城下町遺跡出土遺物

(2)「戦国陶磁」を探る

ー「中世」と「桃山」のはざ間ー

戦国期の日本列島における陶磁の全体像を窯跡出土陶磁約100点と伝世陶磁約30点を用いて明らかにした。

A 戦国瀬戸の陶器生産ー瀬戸市品野地区桑下地点ー(窯と工房・窯と城・“知られざる”瀬戸戦国陶器) 桑下東窯跡・桑下城跡・上品野西金地遺跡出土遺物

B 戦国的陶磁様式ー経済と文化、世界と地域ー(大陸陶磁の流通・列島陶磁の複合的生産と流通・列島陶磁文化の展開)

C 戦国陶磁の鑑賞ー戦国期から現代へー施釉陶器・焼締陶器の大形甕・壺

(3) 大航海時代の戦国あいち

ー16世紀前後の日欧史料からー

戦国期前後の日本とヨーロッパの関係を屏風・絵図ほか各種史料約20点で描いた。

A 戦国あいちの世界認識(中世的世界認識・可能性の時代・近世的世界認識)

B 海でつながる都市(名古屋、リスボン・アムステルダム)

C 南蛮人が見た戦国あいち(宣教師の目・商人の目)

(4) 特集陳列I 東海最大の弥生集落

ー朝日遺跡の至宝

平成24年に新たに重要文化財に指定された出土品を含む、弥生時代の土器。約30点を展示した。

A 赤い土器の世界(赤彩土器の各器種)

B 謎の円窓付土器(円窓付土器)

C 弥生土器の造形(弥生時代中期の壺形土器など)

D 小さなやきもの(鳥形土製品・ミニチュア



展示 信長を生んだ戦国尾張



展示 信長を生んだ戦国尾張(かわらけ)



展示 信長を生んだ戦国尾張(石垣の土台木)



展示 愛知県埋蔵文化財センター発掘調査の風景



オープニングセレモニー



埋蔵文化財講演会



展示会風景



埋蔵文化財講演会



展示会風景



埋蔵文化財講座



展示会風景



埋蔵文化財講座(展示解説)

土器など)

(5) 特集陳列2

愛知県埋蔵文化財センター発掘調査の風景
愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査した
主な遺跡の写真展。

5 埋蔵文化財講演会

- 1) 会場 愛知県陶磁資料館 本館 講堂
- 2) 会期 平成24年9月9日(日)
午後1時30分～3時30分
- 3) 講師 仁木 宏(大阪市立大学教授)
- 4) 演題 「戦国尾張の城と町
—安土への道、大坂への道—」

6 関連事業

- 1) 埋蔵文化財講座「発掘された尾張守護所」
 - (1) 会場: 愛知県陶磁資料館
本館 講堂・第1展示室
 - (2) 日時: 平成24年7月29日(日)
午後1時30分～3時30分
 - (3) 講師: 鈴木正貴
* 講堂での講義の後、展示室で「信長を
生んだ戦国尾張」の展示解説を行った。
- 2) 考古学セミナー「あいちの考古学2012」
* 詳細は後述。
- 3) あいち学セミナー
「大航海時代の戦国あいち」
 - (1) 会場: 愛知県陶磁資料館 本館 講堂
 - (2) 日時: 平成24年8月26日(日)
午後1時30分～午後4時
 - (3) 講師・総括: 服部光真(愛知県立大学大学
院生・日本中世史)・大塚英二(愛知県立
大学教授・日本近世史)・山村亜希(愛
知県立大学准教授・歴史地理学)・アナ
・ガルシア(東京大学准教授・中南米ス
ペイン語学)・上川通夫(愛知県立大学
教授・日本中世史)
* 共同研究の成果を報告。

4) 日替わり展示解説

- (1) 会場: 愛知県陶磁資料館 本館
第1展示室・第2展示室・特別展示室

(2) 日時: 各回とも午後1時30分から約30分

- A 平成24年8月 5 日(日) 第1展示室「大
航海時代の戦国あいち」 川畑博昭(愛
知県立大学准教授)
- B 平成24年8月12日(日) 特別展示室「朝
日遺跡の至宝」 原田 幹(愛知県教育委
員会主査)
- C 平成24年9月 2 日(日) 第1展示室「戦
国陶磁を語る」 小川裕紀(愛知県陶磁
資料館学芸員)
- D 平成24年9月23日(日) 第2展示室戦国
陶磁の鑑賞」 小川裕紀

5) 日替わり考古学ワークショップ

- (1) 会場: 愛知県陶磁資料館 本館
特別展示室入口前
- (2) 日時: 午前10時～正午、午後1時～3時
- (3) 講師: 愛知県埋蔵文化財センター職員・
愛知県埋蔵文化財調査センター職員・愛
知県教育委員会文化財保護室職員
- (4) 内容:
 - A 平成24年7月29日(日)
「骨のペンダントを作ろう」
 - B 平成24年8月 5 日(日)
「岩倉城の獅子頭を作ってみよう」
 - C 平成24年8月12日(日)
「弥生土器の拓本をとろう」
 - D 平成24年8月19日(日)
「かわいい水滴つくってみましょう!」
 - E 平成24年8月26日(日)
「あなたも私も同じ仲間!」
古墳時代のフェイス・ペインティング」

6) 愛知県立芸術大学学生による

ロビーコンサート

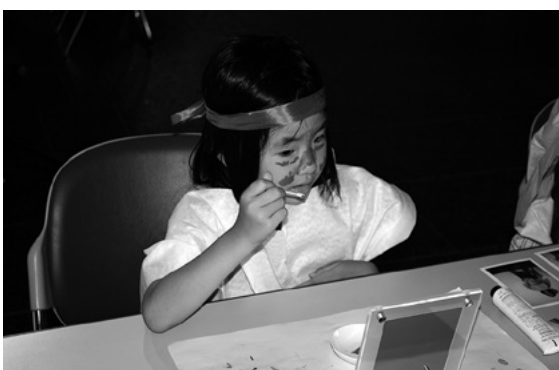
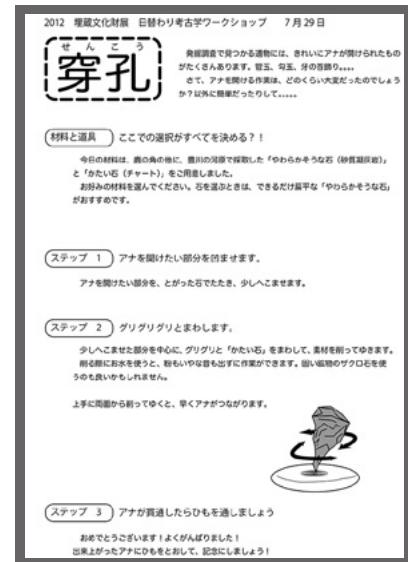
- (1) 会場: 愛知県陶磁資料館
本館 玄関ロビー
- (2) 日時: 各回とも12時15分開演、約1時間
- (3) 協力: 愛知県立芸術大学
芸術創造センター
- (4) 内容:
 - A 平成24年8月19日(日)
コントラバス四重奏
 - B 平成24年9月16日(日) 弦楽四重奏



日替わり考古学ワークショップ
「岩倉城の獅子頭を作ってみよう」



日替わり考古学ワークショップ
「骨のペンダントを作ろう」



日替わり考古学ワークショップ
「あなたも私も同じ仲間!?
古墳時代のフェイス・ペインティング」



考古学セミナー「あいちの考古学2012」の開催

愛知県内外には、県教育委員会、市町村教育委員会、財団法人、大学、特定非営利活動法人(NPO)、民間調査組織、遺跡調査会、その他研究グループ、同好会、ボランティア団体等といった発掘調査などを実施する考古学関係団体が活動している。今回、これらの団体が一同に会して近年の調査研究の成果を、プレゼンテーション・映像放映、基幹報告・セッション、ポスターセッションなどを通じて広く一般県民に公開し、団体間で情報を共有することをコンセプトとして、考古学セミナー「あいちの考古学2012」を開催した。

主催：愛知県埋蔵文化財センター

愛知県陶磁資料館

日時：平成24年9月30日(日)

午前10時から午後4時

場所：愛知県陶磁資料館

本館講堂と講堂ロビー

<<内容>>

10:00 開会

10:10～10:25

愛知県名古屋市玉ノ井遺跡の発掘調査
について

長崎千明(名古屋市見晴台考古資料館)

10:25～10:40

豊橋市内田貝塚の発掘調査

松本泰典(豊橋市教育委員会)

10:40～10:55

畑間遺跡・東畑遺跡の発掘調査

宮澤浩司(東海市教育委員会)

10:55～11:10

堂外戸遺跡の発掘調査成果

森 泰通(豊田市教育委員会)

11:10～11:25

能田旭古墳第4・5次調査の成果

伊藤明良(北名古屋市教育委員会)

11:25～11:40

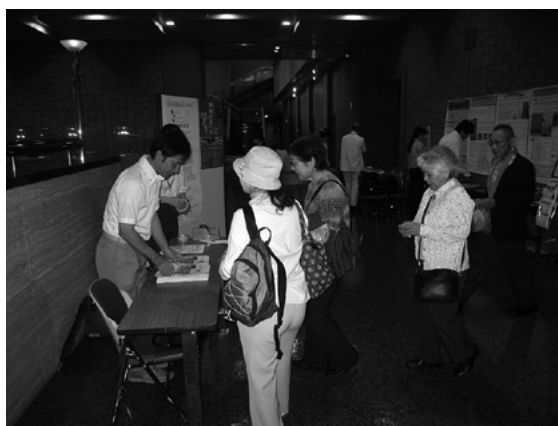
平成23年度普門寺旧境内確認調査の概要

村上 昇(豊橋市教育委員会)

11:40～11:55

小牧山城跡の発掘調査について

小野友記子(小牧市教育委員会)



会場受付



プレゼンテーション



プレゼンテーション

11:55～12:10

清洲城下町遺跡の発掘調査

西野順二(国際文化財株式会社)

13:00～13:15

酸素同位体比を用いた年輪年代法

中塚 武(名古屋大学)

13:15～13:30

美濃国における古代寺院とその展開

小林新平(名古屋大学)

13:30～13:45

豊田市域遺跡詳細分布調査の成果と課題

廣瀬正嗣(南山大学)

13:45～14:00

田原市宮西遺跡の発掘調査について

安井 充(愛知学院大学)

14:15～14:30

丹後国製塩遺跡と海部氏

山崎し央倫(三重大学)

14:30～14:45

岡崎市西牧野遺跡の調査

成瀬友弘(愛知県埋蔵文化財調査センター)

14:45～15:00

文化遺産カード事業について

中島和哉

(NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク)

15:00～15:15

膠(にかわ)による文化財修復への活用

岩月真由子(文化財保存修復学会会員)

15:20～16:00

セッション「塔の越遺跡と尾張国府」

石黒立人・永井邦仁・早野浩二(愛知県埋蔵文化財センター)・北條猷示(稲沢市教育委員会)

<<ポスターセッション>>

○「歴史の里」構想と志段味古墳群の調査

名古屋市教育委員会

○森浩一文庫と春日井シンポジウム

春日井市教育委員会(民俗考古展示室)

○畑間遺跡・東畑遺跡の発掘調査の成果

東海市教育委員会



ポスターセッション会場



ポスターセッション会場



ポスターセッション



ポスターセッション

○稲沢文化財愛護少年団の活動

稲沢文化財愛護少年団

○文化遺産のみえる街づくり事業

NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

○¹⁴Cウィグルマッチングによる年代測定

株式会社パレオラボ

○写測くん+俯瞰撮影システム

・遺構くんB・遺物くん

株式会社CUBIC

○調査事例報告・土色注記入カシステム

株式会社二友組

○その他

愛知県埋蔵文化財センター・愛知県埋蔵文化財調査センター・瀬戸市埋蔵文化財センター・国際文化財株式会社

<<参加・協力団体>>

愛知県陶磁資料館、愛知県教育委員会・愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県史編さん室、名古屋市教育委員会・名古屋市見晴台考古資料館、春日井市教育委員会、稲沢市教育委員会・稲沢文化財愛護少年団、東海市教育委員会、豊橋市教育委員会、福井県美浜町教育委員会、公益財団法人

愛知県教育・スポーツ振興財団、愛知県埋蔵文化財センター、公益財団法人瀬戸市文化振興財団瀬戸市埋蔵文化財センター、NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク、名古屋大学、南山大学、愛知学院大学、三重大学、岩月真由子、株式会社CUBIC、株式会社二友組、ナカシャクリエイト株式会社、国際文化財株式会社、株式会社パレオ・ラボ、考古学フォーラム

<<参加者 250名>>

今年度初めて実施した考古学セミナーは、県内外の考古学関係機関、団体と一般参加者が一同に会する機会を設けることを目的としたもので、当日は台風17号の接近にもかかわらず、県内外から約250名の参加者があった。全体としても好意的な意見が多く、来年度以降の開催を望む声が多かった。反省点としては、プレゼンテーションなどの内容が調査報告に偏りがちで少し単調であったこと、休憩時間が短くポスターセッションに十分に参加することができなかったこと等がある。次年度以降もより多様で興味深い内容を提供できるように、各関係機関と協力を諮りたい。(早野浩二)



セッション風景



セッション風景

V. 埋蔵文化財センターの活動

[illegible]

愛知県埋蔵文化財センター 年報 2013.3

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料	期間
有限会社風媒社	単行本「天下人の城- 信長から秀吉・家康へ」(千田嘉博編)	名古屋城三の丸遺跡 清洲城下町遺跡	遺構写真 遺構写真 (90D 区五条川、63E 区SD01、63F 区SD01 とSD02、96 区石垣、91C 区全景)	1点 5点 2012.10.2
みよし市教育委員会	「新編 三好町誌」本文編に利用	郷上遺跡 埋蔵文化財展(2003 年度)リーフレット	遺構写真 68p イラスト	1点 1点 2012.10.4
一宮市博物館	一宮市博物館講座「濃尾平野を語る17 一宮の歴史と文化～一宮を語る～」予稿編に利用のため	大毛沖遺跡ほか	図版6 点 写真15 点	21点 2012.11.1
株式会社 同成社	考古学研究調査ハンドブック④「出土木製品の保存と対応」	一色青海遺跡ほか	図版および写真37 点	37点 2012.11.26
名古屋市市政資料館	「新修名古屋市史」全21 巻のうち「資料編考古2」に利用	名古屋城三の丸遺跡	写真	27点 2013.1.8

<< 平成 24 年 4 月～平成 25 年 1 月 >>

ホームページ

Web更新データ

●ブログ更新記事一覧

今年度のブログ記事は1月末時点において、45本であった。概ね週1回の更新である。

カテゴリー	内 容	公開日
調査速報	日置本郷 B 遺跡について	2012.04.11
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (4)	2012.04.20
調査速報	平成 24 年度発掘調査予定遺跡	2012.04.25
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (5)	2012.04.27
調査速報	日置本郷 B 遺跡の報告	2012.05.30
調査速報	豊田市下山地区の発掘調査 その 1	2012.06.04
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (6)	2012.06.11
調査速報	野添遺跡 調査速報	2012.06.18
展示・講演会	平成 24 年度埋蔵文化財展のお知らせ	2012.06.20
調査速報	トヨガ下遺跡 調査速報	2012.06.22
展示・講演会	日置八幡宮遺跡展 始まる	2012.06.25
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (7)	2012.06.27
その他	MyGallery システムの公開	2012.07.04
展示・講演会	第 4 回家族の絆づくり事業「家族で歴史を体感」	2012.07.06
展示・講演会	埋文展こぼれ話 (その 1)	2012.07.09
調査速報	猪移り遺跡 調査速報	2012.07.11
展示・講演会	埋文展こぼれ話 (その 2)	2012.07.25
展示・講演会	埋文展こぼれ話 (その 3)	2012.08.03
展示・講演会	埋文展こぼれ話 (その 4)	2012.08.09
展示・講演会	埋文展こぼれ話 (その 5)	2012.08.20
調査速報	東下地遺跡 調査速報	2012.08.22
その他	高校生の発掘体験	2012.08.27
展示・講演会	埋文展こぼれ話 (その 6)	2012.08.29
その他	「守」とは誰か? 尾張国府を探す	2012.08.31
説明会	下山田代地区内遺跡発掘調査地元説明会のお知らせ	2012.09.03
調査速報	栗狭間遺跡の調査速報	2012.09.05
その他	「発掘歴史探検」のご報告	2012.09.19
展示・講演会	埋文展こぼれ話 (その 7)	2012.09.21
説明会	下山田代地区内遺跡発掘調査地元説明会のご報告	2012.09.24
展示・講演会	考古学セミナーのご案内	2012.09.27
展示・講演会	埋蔵文化財展 終了のご報告	2012.10.10
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (8)	2012.10.17
調査速報	栗狭間遺跡の調査速報 その 2	2012.10.25
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (9)	2012.11.01
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (10)	2012.11.15
展示・講演会	愛知県陶磁資料館南館の展示変え	2012.11.28
調査速報	栗狭間遺跡の調査速報 その 3	2012.11.30
その他	雲と考古学	2012.12.05
調査速報	栗狭間遺跡の調査速報 その 4	2012.12.21
その他	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (11)	2012.12.28
説明会	寄島遺跡 地元説明会のおしらせ	2013.01.15
調査速報	北丹波・東流遺跡 調査速報 その 1	2013.01.21
調査速報	北丹波・東流遺跡 調査速報 その 2	2013.01.28
その他	遺物接合の研修会	2013.01.30
調査速報	北丹波・東流遺跡 調査速報 その 3	2013.02.04

<< 平成 24 年 4 月～平成 25 年 1 月 >>

公開ファイル

報告書 PDF	139 件
説明会資料	54 件
年報 PDF	270 件
研究紀要 PDF	88 件
その他チラシ類	10 件
まいぶん愛知 PDF	32 件
遺跡位置登録	218 件
遺跡アルバム	27,950 点

今年度は、従来刊行された報告書に加え、朝日遺跡とその関連遺跡の報告書について、OCR済みのPDFを公開した。第0～90集までの報告書はスキャンニング精度等に問題があり、これまでPDFを公開していなかった。そこで今年度、島根大学が中心になって推進されている「全国遺跡資料リポジトリ」において公開されるPDFの基準に基づき、新たにPDFを作成し公開した。

* 新たに公開した報告書

第30集	朝日遺跡I	221.5Mb
第31集	朝日遺跡II 自然科学編	111.5Mb
第32集	朝日遺跡III	55.3Mb
第33集	朝日遺跡IV	122.5Mb
第34集	朝日遺跡V 土器編・総論編	140.6Mb
第34集	朝日遺跡V 図版・索引編	177.5Mb
第83集	朝日遺跡VI 本文	217.4Mb
第83集	朝日遺跡VI 図版	23.2Mb
第10集	廻間遺跡	85.6Mb
第2集	土田遺跡	52.6Mb
第23集	土田遺跡II	12Mb
第4集	大淵遺跡・阿弥陀寺遺跡	7.8Mb
第18集	大淵遺跡	84.3Mb
第11集	阿弥陀寺遺跡	189Mb

CDコピーサービス (H24.4～H25.1)

ここ数年と同様、コピーサービスの件数は、減少している。

1	071 田所				
2	040 山中	045 山中2	073 西上免	083 朝日	
3	042 東光寺				
4	064 刀池	075NA335	081 鴻巣	082 毛受	085 森岡
5	000 勝川	011 阿弥陀寺	020 松崎	056 黒笹	057 牛の松
6	002 勝川	009 町田	010 廻間	018 大淵	019 勝川
7	023 朝日西	030 朝日1	031 朝日2	032 朝日3	

「今月のギャラリー」と「MyGallery」、「遺構・遺物一覧」

遺跡アルバムにおいて公開されている写真が2万点を超えた。これらの写真の利用を促進するために、職員による新たな写真選択を行い、スライドショーの形で提示するシステムを構築した。「今月のギャラリー」である。このコンテンツは、毎月1名の職員がスライドショーを作成し、公開するコンテンツである。今年度は、11本のスライドショーが公開された。

「MyGallery」は、職員以外の来訪者が作るスライドショーのコンテンツである。8本の投稿があった。このコンテンツは、2万点の写真の閲覧を促すために設置したものだが、使い方が分かりにくく、利用がのびなかった。改善の必要がある。

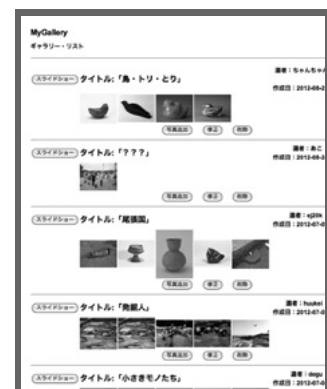
「遺構・遺物一覧」は公開された報告書から、遺構一覧と遺物一覧のデータをデータベース化したものである。1冊の報告書の遺構一覧中の1つの遺構をクリックすると、その遺構から出土した遺物や関連の写真が閲覧できるシステムとなっている。遺構の検索や遺物の検索も可能である。発掘調査情報の活用につながれば幸いである。



「今月のギャラリー」



「MyGallery」



「MyGallery」リスト



「報告書抄録」ページ



「遺構・遺物一覧」



「遺構一覧」



「遺構詳細」



「遺物詳細」

現地説明会・地元説明会・遺跡報告会

遺跡名	開催日	所在地	参加者
猪移り遺跡	平成24年9月15日（日）	豊田市下山田代町	50名
寄島遺跡	平成25年1月26日（土）	安城市小川町	53名

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所属
猪移り遺跡	平成24年 9月12日（水）	渡辺 誠	名古屋大学名誉教授
栗狭間遺跡	平成24年10月10日（水）	渡辺 誠	名古屋大学名誉教授

報告書作成のための指導

遺跡名	指導日	指導者	所属
松崎遺跡	平成24年 8月23日（木） 8月24日（金）	畑中智史	東京大学総合博物館
清洲城下町遺跡	平成24年 8月 1日（水）	藤澤良祐	愛知学院大学教授
別嵜古窯群	平成24年 8月16日（木）	藤澤良祐	愛知学院大学教授
別嵜古窯群	平成24年 9月 7日（金）	中野晴久	とこなめ陶の森資料館館長
松崎遺跡	平成24年 10月25日（木）	畑中智史	東京大学総合博物館
須長10号墳	平成25年 1月25日（金）	城ヶ谷和広	愛知県熱田高等学校教頭

その他普及事業

県民交流事業 ファミスポフェスタ 2012

日時：平成24年11月23日（金・祝） 9：45～16：00

会場：愛知県体育館 第1競技場

内容：黥面体験

- ・黥面ペイントを行い貫頭衣を着て、記念撮影。
- ・ペーパークラフト配布
(パレス壺、脚付パレス壺、ワイングラス)

* 黥面体験人数：42名

* ペーパークラフト配布数：106枚



家族の絆づくり事業

『家族で歴史を体感（第4回）』

日 時：平成24年9月9日（日）

午前9時30分～午後4時30分

参加者：12家族34名

会 場：愛知県陶磁資料館（午前）

豊田市下山田代町 猪移り遺跡（午後）

朝9時15分からの受付であったが、スタッフより早い9時前から駆けつけていただいたご家族もあった。

朝一番は土器・陶磁器の接合作業の体験を実施した。最初は初級から中級コースの別唄古窯跡出土の山茶碗からスタートした。接合体験は順調に進み、中には上級コースの清洲城下町遺跡の出土土器・陶磁器にチャレンジする家族もあった。予定時刻の1時間が経つ頃には、準備したすべての遺物が終了してしまった。

その後、愛知県陶磁資料館内で開催中の埋蔵文化財展『戦国のあいち』展の見学を行った。おみやげの工作キットのモデルになった岩倉城遺跡から出土した獅子頭の前で、戦国時代の祭りについて解説を実施した。

昼から、バスで豊田市下山地区に移動し、猪移り遺跡の発掘作業体験を実施した。大人も子供も手ガリと手スコを持ち、縄文時代早期の縄文土器や石器を発掘した。一つも見つけれないお父さんから10個もみつける子供さんまであった。一つ見つけるごとにいろいろな質問を受けた。

猪移り遺跡の発掘調査現場では、少し手狭の感じがあったが、参加者の熱意で多くの発見ができたと思われる。（蔭山誠一）



土器・陶磁器の接合作業体験



猪移り遺跡の発掘作業体験



参加者の記念写真

平成24年度 愛知県埋蔵文化財センター 組織一覧

運営協議会委員（五十音順）

足立 守	名古屋大学博物館特任教授
上村喜久子	名古屋短期大学名誉教授
加古三津代	愛知県教育委員会生涯学習監
加藤安信	大同大学大同高等学校校長
柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
石井悦雄	愛知県都市教育長協議会会長 江南市教育委員会教育長
藤澤良祐	愛知学院大学教授
松井 章	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長

専門委員

考古学	伊藤秋男	南山大学名誉教授
考古学	柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授
地理学	海津正倫	奈良大学教授
建築史学	麓 和善	名古屋工業大学院教授
考古学 動物学 植物学	渡辺 誠	名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷 昭	長野県看護大学教授
保存科学	高妻洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 保存修復学研究室長
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

センター長 平松栄一

管理課

管理課長	大野典子
主 査	森 清
主 任	下野直樹
主 事	藁科有紀子

調査課

副センター長 兼調査課長	赤塚次郎
統括専門員	石黒立人
主任専門員	宮腰健司
	酒井俊彦
	池本正明
調査研究専門員	松田 訓
	鈴木正貴
	樋上 昇
	堀木真美子
	永井宏幸
	鬼頭 剛
調査研究主任	武部真木
	蔭山誠一
	川添和暁
	永井邦仁
	早野浩二
嘱託員	小澤一弘

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書

曲松遺跡

2013

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

曲松遺跡発掘調査報告

調査の経過 曲松遺跡は豊橋市大岩町曲松に所在する。発掘調査は、県道小松原二川停車場線改良工事に伴う事前調査として愛知県教育委員会を通じた委託事業である。調査面積は330㎡、調査期間は平成24年5月7日～25日である。調査担当は当センター調査課松田訓（調査研究専門員）と永井邦仁（調査研究主任）である。遺跡の位置は、北緯34度43分19秒、東経137度26分36秒である。県遺跡番号は790568、県埋文遺跡記号は4TMGである。調査工程は、表土・遺構掘削を（株）波多野組、測量を（株）フジヤマが実施した。

地理的環境 遺跡は豊橋市の東南部に位置し、三河湾へ西流する梅田川の左岸台地上に立地する。梅田川の河道は比較的最近まで蛇行しており、地割などにその痕跡がみられる。その梅田川と南から流下する沢渡川との合流点南西側に曲松遺跡が所在する。そのため遺跡地は南から北へ向かって下り傾斜となっており、地表面は標高で21～23mの幅がある。一方梅田川右岸は三遠国境となる弓張山地の南端が迫り、梅田川までの狭小な平坦部に近世東海道や鉄道（JR東海道新幹線など）が寄り添うようにして東西方向に延びている。



図1 曲松遺跡の位置（1/2.5万「二川」）

周辺の遺跡 このように河川で三河湾沿岸とつながるとともに、地峡を主要交通路が抜ける地理的環境は、当該遺跡を歴史的に評価する上で重要な要素になる。周辺で確認されている遺跡の多くは古代～中世の窯業遺跡で、遺跡西方の苗畑古窯跡群は灰釉陶器・緑釉陶器や瓦の生産地である。その北側台地縁辺には本郷遺跡があり、古代の掘立柱建物や中世の屋敷地が検出された。古代窯業生産の拠点を端緒に成立し、中世は近世東海道二川宿成立まで続いた、地域における中核的集落と考えられている（岩瀬2002）。



図2 曲松遺跡周辺の遺跡分布（1/2.5万「二川」）



調査前風景(南から)



表土掘削(12Bb区、南から)



遺構検出(12Bc区、北から)



遺構完掘(12Bc区、南から)



トレンチ掘削(12A区、西から)



T2完掘(12A区、北から)



調査完了状況(南から)

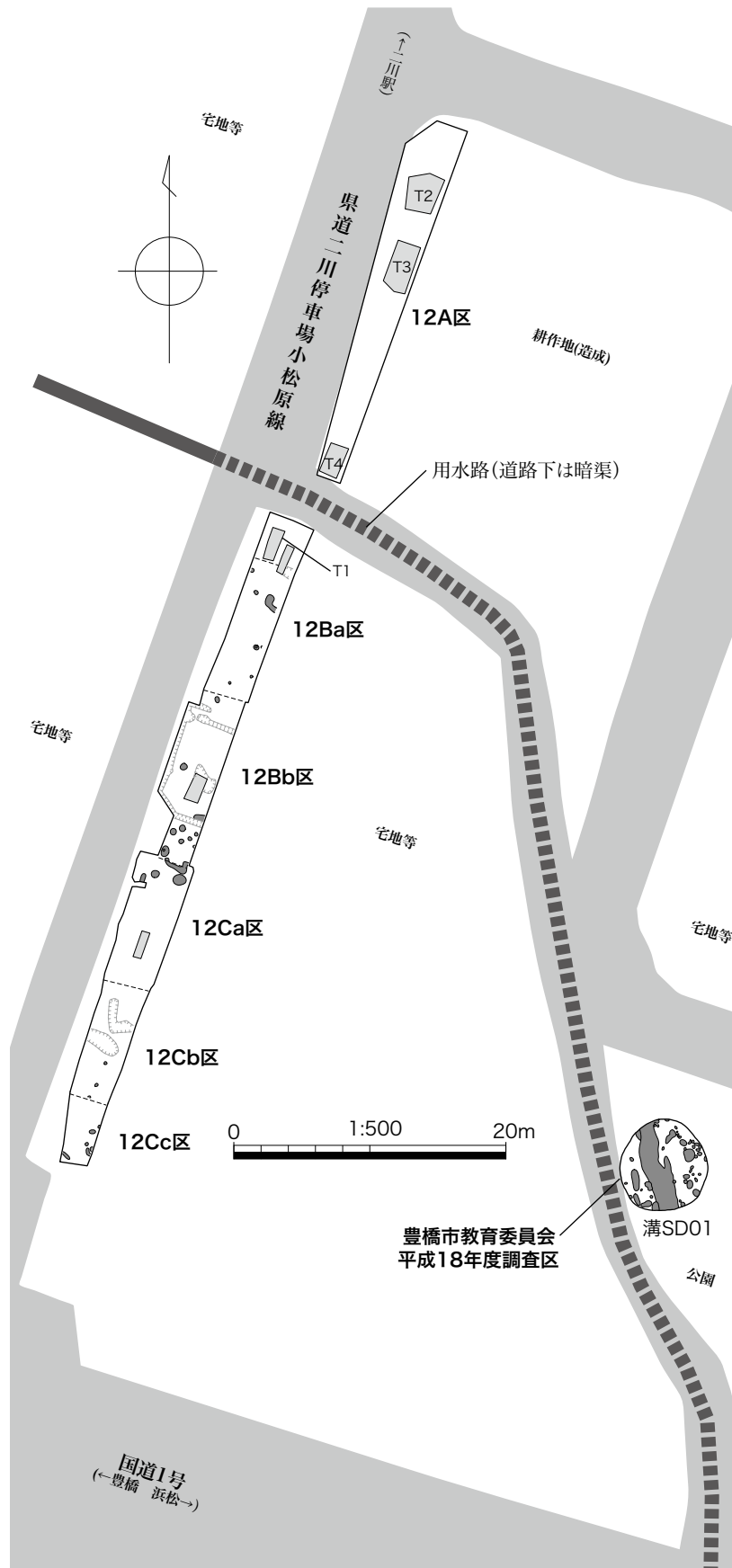


図3 曲松遺跡調査区全体図(1:500)

過去の調査 曲松遺跡では、平成 18 年度に、豊橋市教育委員会による公園内防火水槽工事に伴う第 1 次発掘調査が実施されている。それは今次発掘調査区より東へ約 40m の地点で、南北溝やピットが検出され、須恵器・山茶碗（灰釉系陶器）が出土している（小林 2012）。このことから、当該期の集落が台地上に展開している可能性が予想されていた。

基本土層 遺跡は、段丘面を構成する礫混じり粘土層を基盤層とし、基本的には約 20cm 厚の表土を掘削してあらわれる粘土層上面で遺構が検出される。しかし 12Ca 区以南では、盛土がなされた分だけ表土が厚く、一方低い地点（12A 区）では、削平・水田化された上に盛土がなされている。そのため後者については、狭小な調査区の全面掘削は危険と判断し、3 か所のトレンチによって土層の概略を記録して基盤層上面での状況を確認する調査にとどめた。結果、各トレンチで遺構・遺物の検出は全くなかった。また基盤層上面は 12B 区で緩傾斜であるのに対し、12A 区は明らかに水平になっており、比較的近時の削平であることが考えられる（図 4）。また 12C 区も地形改変の痕跡である可能性が高い。

遺構 遺構は、12Bb 区南半部で比較的良好に検出された。そのほとんどが直径 20 ～ 50cm のピットである。これらの深さはまちまちで、調査区内で掘立柱建物（または柵）を構成することはなかった。またピット内からの出土遺物もなかった。この他 12Ca 区の 001SX や 12Cb・Cc 区の直径 25cm 以下の小ピット群などがあるが、前者は地境溝の可能性が考えられ、後者は小さな柵であったと考えられる。いずれも比較的新しい時期の耕作地に関わるものであろう。これらの遺構からも遺物の出土はなかった。

遺物 遺物は、上記のとおり遺構出土のものはなく、表土・包含層掘削中のものに限られる。宅地化された近代以降の陶磁器が約 10 点あり、近世に遡るものは耕作地であったためか極端に少ない。加えて中世以前のものは皆無に近く、摩滅した須恵器・土師器小片が採集されたにすぎない。しかしそれでも 12Cc 区調査区東壁を精査中に須恵器箱形杯（E-001）が出土したほか、検出中に山茶碗の小片（E-002）が出土した。前者は、出土位置から耕作による攪拌層のやや窪んだ地点にはまり込んだものとみられ、付近に当該期の遺構があったことの証拠となる。

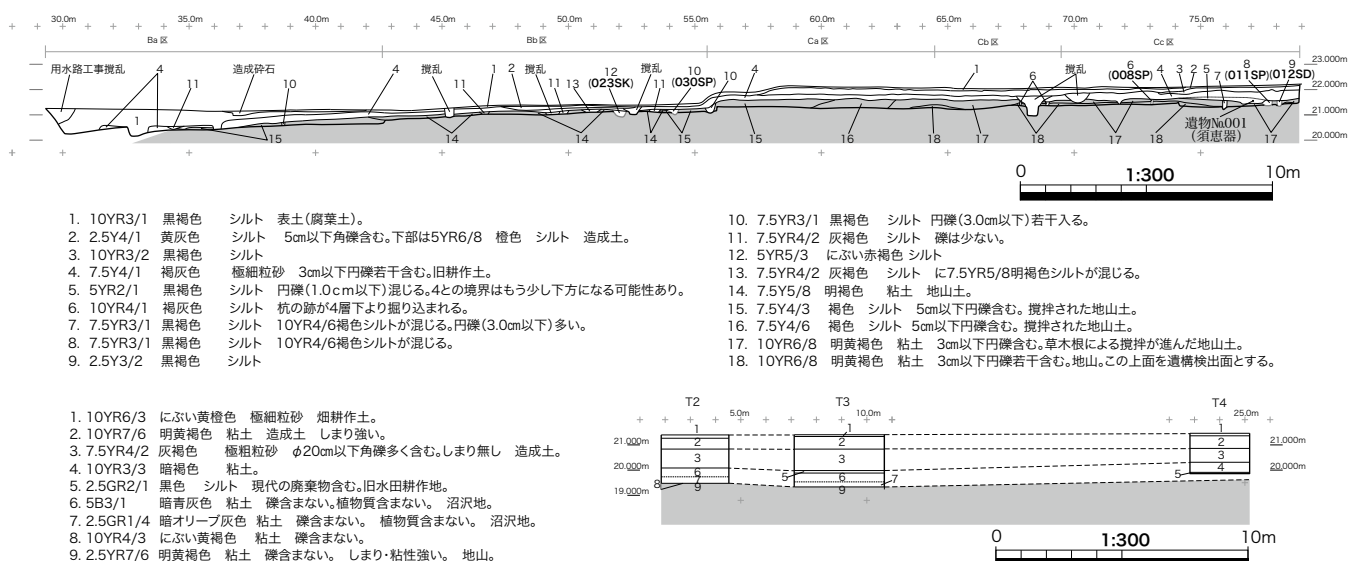


図4 曲松遺跡土層断面図(1:300)

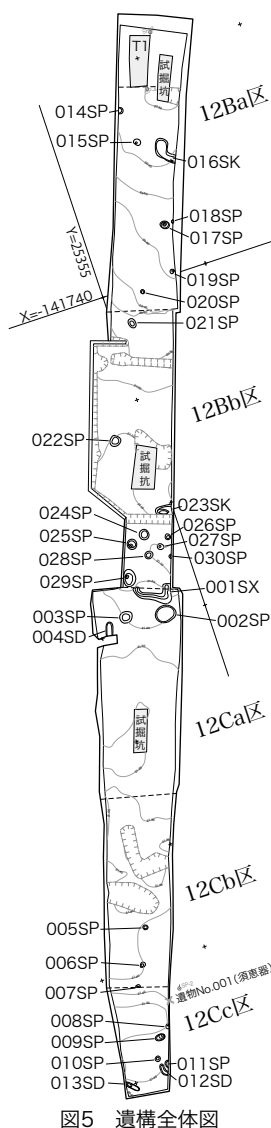
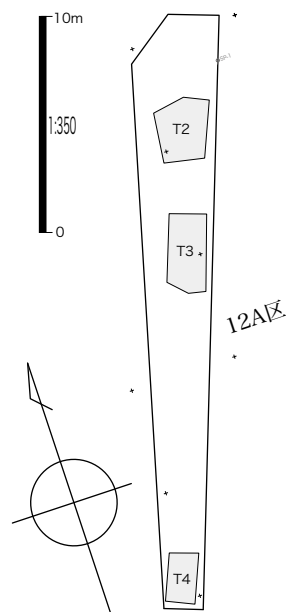


図5 遺構全体図

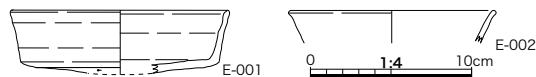


図6 曲松遺跡出土遺物実測図(1:4)

表1 曲松遺跡12A～C区遺構一覧

番号	区	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土
001SK	12Ca	1.74	0.26	0.08	10YR3/1 黒褐色砂質シルト。
002SK	12Ca	0.94	0.81	0.05	7.5YR3/3 暗褐色粘質シルト 直径2cm以下円礫混じる。
003SP	12Ca	0.64	0.57	0.17	7.5YR4/2 灰褐色シルト。
004SD	12Ca	(0.60)	0.30	0.08	7.5YR3/2 暗赤褐色砂質シルト。
005SP	12Cb	0.24	0.20	0.13	5YR2/2 黒褐色シルト に 10YR6/8明黄褐色粘土 が若干混じる。炭化物あり。
006SP	12Cb	0.25	0.17	0.19	7.5YR4/1 褐灰色シルト。
007SP	12Cb	0.23	(0.15)	0.22	5YR2/2 黒褐色シルト。
008SP	12Cc	0.22	(0.17)	0.18	7.5YR3/1 黒褐色シルト に 10YR6/8明黄褐色シルト混じる。直径2～3cmの礫多く混じる。
009SP	12Cc	0.44	0.26	0.32	7.5YR3/1 黒褐色シルト。
010SP	12Cc	0.25	0.22	0.21	7.5YR3/1 黒褐色シルト。
011SP	12Cc	0.37	(0.15)	0.04	2.5Y3/2 黒褐色シルト に 10YR6/8明黄褐色シルト が約半分混じる。
012SD	12Cc	0.61	0.22	0.10	2.5Y3/2 黒褐色シルト。直径1cm以下円礫若干混じる。
013SD	12Cc	0.72	0.21	0.14	7.5YR3/1 黒褐色シルト に 10YR6/8明黄褐色シルト が混じる。直径1cm以下円礫若干混じる。
014SP	12Ba	0.35	0.30	0.06	7.5YR3/1 黒褐色シルト 円礫混じる。
015SP	12Ba	0.32	0.28	0.07	7.5YR3/2 黒褐色シルト 円礫混じる。
016SK	12Ba	1.36	0.34	0.05	7.5YR4/1 褐灰色シルト 円礫混じる。
017SP	12Ba	0.43	0.36	0.10	7.5YR4/2 灰褐色シルト 直径3cm以下の円混じる。
018SP	12Ba	0.12	(0.06)	0.10	7.5YR2/1 黒色シルト 礫少ない。
019SP	12Ba	0.24	0.19	0.09	7.5YR3/2 黒褐色シルト 円礫混じる。
020SP	12Ba	0.20	0.18	0.13	7.5YR2/1 黒色シルト 礫少ない。
021SP	12Bb	0.47	0.33	0.14	5YR5/3 にぶい赤褐色粘質シルト。
022SP	12Bb	0.52	0.50	0.06	10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト。直径2cm以下円礫混じる。
023SK	12Bb	(0.75)	(0.50)	0.43	5YR5/3 にぶい赤褐色粘質シルト。
024SP	12Bb	0.50	0.46	0.12	10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト。直径2cm以下円礫混じる。
025SP	12Bb	0.51	0.49	0.53	10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト。直径2cm以下円礫混じる。
026SP	12Bb	0.25	0.25	0.58	7.5YR5/2 灰褐色シルト。直径2～4cm円礫混じる。
027SP	12Bb	0.29	0.28	0.57	7.5YR5/2 灰褐色シルト。直径2～4cm円礫混じる。
028SP	12Bb	0.37	0.32	0.13	7.5YR5/2 灰褐色シルト。直径2～4cm円礫混じる。
029SP	12Bb	0.81	0.57	0.30	10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト。直径2cm以下円礫混じる。
030SP	12Bb	0.20	(0.15)	0.09	7.5YR5/2 灰褐色シルト。直径2～4cm円礫混じる。

総括 上記したように、曲松遺跡における今次発掘調査は、豊橋市教育委員会の第1次発掘調査に比べて広い面積を対象としたものの、顕著な遺構・遺物の検出には至らなかった。その理由としては、12A区のように削平を受けていたこともあるが、12B・C区において包含層中からの遺物出土が寡少であったことも考慮すると、当該調査区の位置が遺跡の縁辺に相当していたためとも考えられる。

小規模な古代集落 第1次調査の出土遺物は、8世紀の須恵器と9世紀後半（K-90号窯期）の灰釉陶器、そして12世紀半ば過ぎ（渥美1b型式期）の渥美窯産輪花碗に区分される。まず、8～9世紀の遺物はほとんどが小片であるが一通りの器種が揃っており、小規模・短期間の古代集落が断続的に営まれたと考えられる。そのため遺跡の範囲もそれほど大きくならなかったと推定される。具体的には、今次発掘調査区よりも東側の、沢渡川に沿う台地縁辺が中心だったのであろう。今次発掘調査の成果に加味して以上のような見通しができる。

平安時代末期の輪花碗 一方、12世紀代の輪花碗は、完形やそれに近い状態のものが9点あって、溝（SD01）からまとまって出土している。溝は、現在暗渠となっている用水路と近い位置にあるが、これとは逆に北から南へ向かって低くなっているので別の性格が考えられ、また輪花碗が溝内の凹みに集中している。明らかに須恵器・灰釉陶器と異なる出土状況である。ただし、輪花碗は全て使用痕があるので、窯業生産に関連する遺構でもなさそうである。

中世普門寺領の西端 ところで文献史料では、仁治3年（1242）の「和尚権僧正覚普門寺四至注文写」にある「曲松」の地名が知られる。服部光真氏らの研究（服部2011）によると、三遠国境を越えて広がる普門寺領のうち、近世には「マガリ」と訓じられていた「曲松」が寺領西端の一角を占めていることが明らかにされている。おそらく梅田川が沢渡川との合流点付近で大きく蛇行している様子から、地形の特異点として目印にされやすかったのであろうが、鎌倉時代の普門寺ではそれがまさに領域の目印（四至）のひとつになっていたと考えられるのである。

そのような普門寺が境界と認識する地点で、それに近い時期の輪花碗が多数まとまって出土している第1次調査の成果は、上で総括した集落変遷の中ではきわめて特殊な事象といえ、普門寺とその周辺の景観を復元していくにあたって、今後とも注意していく必要があろう。

（永井邦仁）

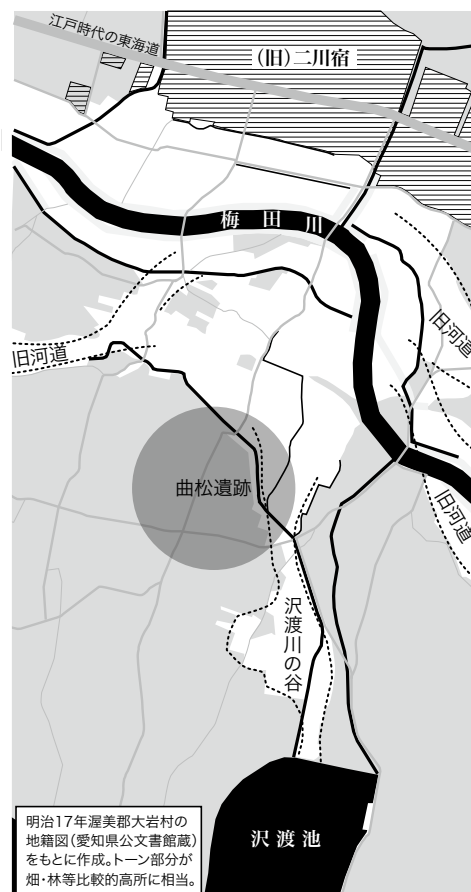


図7 曲松遺跡周辺の古地形環境

（参考文献）

岩瀬彰利 2002 『本郷遺跡（Ⅱ）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第66集

小林久彦 2012 「曲松遺跡第1次発掘調査」『市内埋蔵文化財発掘調査平成17～20年度』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第123集

服部光真グループ 2011 「中世普門寺領の復元的研究」『平成22年度学生自主企画研究事業報告書』愛知県立大学教育研究センター
(http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/kyoken/education/jishu/pdf/h22_report.pdf)



写真1 曲松遺跡12Bb区遺構検出状況(南から)



写真2 曲松遺跡12Ba区全景(南東から)



写真3 曲松遺跡12Bb区遺構完掘状況(北西から)



写真4 曲松遺跡12Ca区全景(南から)



写真5 曲松遺跡12Cb区全景(北から)



写真6 曲松遺跡12Cc区全景(北から)



写真7 曲松遺跡12Cc区出土須恵器(E-001)

抄 録

ふりがな		まがりまついせき						
書 名		曲松遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号								
編著者名		永井邦仁						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2013年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
まがりまついせき 曲松遺跡	あいちけん とよはしし 愛知県豊橋市 おおいわちょう 大岩町	23207	790568	34度 43分 19秒	137度 26分 36秒	2012.05.07～ 2012.05.25	330㎡	県道小松 原二川停 車場線改 良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
曲松遺跡	集落	奈良時代 ～ 鎌倉時代	ピット、土坑		須恵器(杯)、 山茶碗		古代集落の縁辺	
文書番号		発掘届出(23埋セ第166号・2012.3.7) 通知(23教生第2864号・2012.3.23) 終了届・保管証・発見届(24埋セ第53号・2012.6.5) 鑑定通知(24豊教美第145号・2012.6.21)						
要約	本遺跡は、梅田川と沢渡川の合流点に形成された古代・中世の集落遺跡である。従前の発掘調査で多数の山茶碗が出土したが、今回の発掘調査では遺構・遺物ともに寡少であった。一部は削平による滅失の可能性もあるが、元々集落の縁辺であったためと考えられる。このことから、該期の集落は梅田川よりも沢渡川沿いの狭小な範囲に限られたものと想定される。							

年報 平成24年度

平成25年3月

編集・発行 (公財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 栄印刷株式会社
